

第5回町田市新庁舎建設設計者選定委員会議事要録

《町田市新庁舎設計者選定第3次審査公開プレゼンテーション事前打合》

日 時：2006年1月21日（土） 午前10時30から午前11時30
場 所：町田市民フォーラム 4階 会議室
出席者：三井所委員長、高見澤委員、河野委員、松川委員、加島委員
事務局：渋谷新庁舎担当部長、石川新庁舎担当課長、千葉主査、瀧野主事
資 料：公開ヒアリング進行メモ
応募者宛結果通知文例
会場配置図
座席案内図
プログラム
町田市新庁舎建設計画に関するこれまでの経緯
アンケート
簡易提案書写し

<ヒアリングの際に質問する内容等について事前打合せを行った。>

- 委員長：前回の時にメンテナンスの容易性などを質問しようと思っていたが、今日のプレゼンで町田市の庁舎として提案したポイントはどのような点かという所を確認してみたい。
- 委 員：いくつか視点があると思い書き出してみたが、9点ほどあった。基本計画のとらえ方とワークショップのこと、コストのこと、それからメンテナンスのことは材料のことと一緒にような気がする。最後に町田らしさについて聞くというのはいいと思う。景観や街並みのこと、説明されると思うが安全、安心、防災のこと。建築計画という点では、なかなか聞き方が難しいが、ゾーニングの方針、市役所のたくさんの機能を入れる建物の中で市民にとって明解性というかわかりやすさをどのように保障しているのかということがあると思う。
- 委 員：質問すると2～3分では済まないなと思う。答えはなるべく簡単にしてもらいたいところだ。いずれにしても少し長くなってしまふかなという印象をもった。特に聞きたい事を我々がどう整理するかということだ。例えば曾根さんの案は3棟に分離されているが、こちらからこちらに行くときにはどうするのかとか、元倉さんの案では、土日などはどうするかなど。市民が疑問に思うようなことはあげられていると思う。質問する順序についてあらかじめ決めておいた方がいいと思う。
- 委員長：評価について、どういうポイントで評価をするかということだ。機能性という点か、市民参加をどう考えているのかとか、メンテナンス

に関わることだが、サスティナビリティについてなど。それから周辺環境との親和性などだ。これらについて聞けば後の評価がしやすくなると思う。

委員：今出た点と評価のポイントは結びついている。

委員：基本計画のどこに共感して今回の提案に盛り込んだかを聞けないか。今回3者の提案を見ると、材料の使い方などよく似ている。

メンテナンスなどの考え方を聞いてもそれほど差が出てこないような気がする。この辺について差がでるような聞き方をどのようにしたらよいか難しい。それともう一つは景観の問題だが、駅からこの敷地に至るまでの街並みをどうとらえているのか、それによってここにどういう物をもってきて、周辺との調和を図ろうとしているのか聞いてみるのがいいのではないか。周辺をどう読みとったかという聞き方だ。槇さんが高層案、その他2つの案は中低層案になっている。町田の街並みにはどちらがふさわしいか、選び方としてありそうな気がする。

委員長：自動車の動線計画で、槇さんが線路側の道路から車を入れるようになっている。多くの車が駅前通りから入ってくる、その今の横の繋がりを分断しないようにする。その配慮だと思う。車のゾーンと人のゾーンというのがすごく明解に示されていると思う。

そういう観点で見ていくと、曾根さんの案などは段がある。沿道型の建物のすぐ広場側にランプがあって速度をつけながら車が下っていくとか、市民ホールとの間の道をかなりの量の車が通るなど、うまくいくのかなと思う。そういう意味では市民の広場的なものが全く違っている、車との関係で。特徴的な動線計画で、向こうで車があふれてしまわないかと心配になる。改良の方法はあると思うが。ほとんどみんなが、駅前大通りから入ってくるのに対して槇さんだけが違う。

委員：「幹線道路への負担を軽減」と書いてある。後ろの道の整備のことはあまり書いていない、書いてあるか。

委員：南側の道路の動線を整備するということは、基本計画でもけっこう触れていた。この部分はすごく強調している。こういうことができるかどうかよくわからないが。できればすごくおもしろい。市民に開放している部分をまとめると。ここを切りたくなかったが。

委員長：切りたくなかった。気が付かなかったが、すごい提案をと思った。聞きに来ている人達に理解できる聞き方にしないとまずいと思った。

委員：市民の方に、わからないとまずい。

委員長：それでそこをわからせようとすると時間がかかる。

委員：だから答えは簡潔に言ってほしい。質問として我々がどういうところを見ているか伝わるという。

委員長：「市民に親しまれて庁舎らしい品位を保つためには庁舎内外でどのような配慮をしていますか。」と質問しようと思ったのだが。親しみと品位、矛盾するところがあるかもしれないが。全く商業的な空間では困る。信頼性みたいなものが必要だ。

委員：材料のことはガラスとアルミで冷たいイメージになるのをどうやって

防ぐのかなどか。

委員長：要するに市民参加とはどういうことを考えると、ユーザーが使いやすいとか、親しみやすいという観点があると思う。デザインというのも市民が集まってきてここで何かをやるんだという点で市民が納得できるようなデザインとはどういうものかを考えていたと思う。病院の先生が使いやすいとか、看護婦さんが使いやすいとかと同時に医学的な清潔性みたいなもの、そういう要素がデザインの中に現れないとまずいのではないかと思う。それが市民社会の中のデザインではないかと思う。今はあまりにもプロ好みにやっているような気がする。材料などについても一般の人がいいとか、気持ちいいとか思える様なものでないともまずいと思う。

委員：ワークショップをやっていると市民からそういう声が上がってくるだろう。そうするとそうせざるを得なくなってくる。

委員長：そういう時の対応する能力などもある。

委員：細かい設計はしないで、コンセプトだけのレベルでいろいろと聞いていかなければならない。

委員：実際に現地を見て、あれが彼らのお薦めだという事なので、その印象というのはあるだろう。

委員：今までつくってきたものはガラスだったが、この中でそういうものをつくるかどうかはわからない。

委員：可能性はあるが。逆にそこを聞けばいいのか。

委員：コストについては維持管理費を低減させるなど、どのように考えているか質問しようと思う。

委員長：ライフサイクルコストだ。

委員：市民にわかってもらうように質問するとして、質問に2分、回答に3分かかると5人で25分かかってしまうが、その辺をどう調整するか。

委員：先の質問で、建設費の話など出てくるかもしれない。その場合、コストの質問はしないことでいいか。

委員長：いや、やはり聞いてほしい。

委員：それにしても一人2問質問すると45分かかるので、1問プラス少々となるか。例えば私が基本計画のどの部分に着目してこの提案をしたのか、これは前半のプレゼンテーションをよく聞かないとわからないが、この辺を私のほうで聞きましよう。参加やワークショップの話は後ですということ。

委員：建築の話からすると、まず街並みの話から建築単体へということ。街並み。読みとりとそれへの対応の仕方みたいに。そこにさっき出た町田らしさみたいなものが入るのだろう。町田らしさというのは、デザインとは違う話か。

委員：町田らしさというのは、最後のまとめでいいかもしれない。

委員：それから構造計画とか設備計画の話をつけよう。

委員：構造計画とはどういうことか。

委員長：免震構造などだ。

- 委員：環境に対する配慮などはどうするか。
- 委員長：それは建設の話として。
- 委員：設備にか。
- 委員：設備ではないが、もう少し大きい概念だ。建築的なアイデアについては、私はゾーニングのことを聞きたい。説明されるかもしれないが。
- 委員：槇さんのは市民があまり入ってこないゾーンと、市民ゾーンを分けている。
- 委員：そういう空間を市民にかわってもらい聞き方はあるだろう。とりわけ市民協働。
- 委員：そのとおり。そういう意味では、機能、ゾーニング、建築について書いてあるのは槇さんだ。事務のための高層棟と、市民のための低層。曾根さんは棟が分かれているし、元倉さんはもっとすごい。つまり何がどこにあってもそう変わらない。建物によって機能を表現していない。
- 委員：特に3案の差を市民に見てもらいたいような質問がいい。
- 委員：材料の話はどこに入るのか。ライフサイクルコストに入ると思うが。
- 委員長：サステナビリティ。
- 委員：暖かさとかそういうのはどうか。
- 委員長：構造設備計画。
- 委員：これはプレゼンテーションで各応募者が説明の割合が違うので、逆になんとなく抜けているところを見ながら聞くような感じになるのではないか。特にライフサイクルコストなどは人によって強調の仕方が違うと思う。抜けた所を聞くのがいい。
- 委員：設計のプロセスについて、市民参加して多様な要望が出始めた時にはどうしようもない。かといって適当にやられては困る。両立できる力量というのがあるだろう。
- 委員長：曾根さんの言葉で言うと、歴史性とか身体性というのが今抜けていると。
- 委員：基本計画をどう受け止めているかというのはやめて、いきなり空間構成・ゾーニング・市民協働からという手もある。
- 委員：考えていますと言うのは当然だろう。
- 委員：なるべく時間を節約するという意味では無理に基本計画から入らなくてもいいのではないか。周辺の読みとり、町田の読みとりからでもいいのではないか。
- 委員：それから、ゾーニングに関係してくるが、たくさんの人が入る所だからわかりやすくなくてはいけないのだが、どうやってそれが保障されているのかということだ。具体的ではないかもしれないが。その意味で譲れない空間はどこかということがある。
- 委員：参画とか市役所が役所から変わっていく時代で、協働のスペースに差違があるわけだからそこは是非聞いてほしい。
- 委員長：例えば曾根さんが、中庭に出れば何があるかわかるとか。
- 委員：いつでも見渡せるとか、ここに出ればこうわかるとか。

委員長：それは答えが出てきそう。曾根チームのは、南と北が離れていて機動性に欠けるとか、こちらが意図しているところが伝わればいいのだが。

委員：元倉案で言えばこの螺旋の空間。

委員：この辺のイメージというのは槇さんと似ている。曾根さんのは、そういう意味ではちょっと違う。コンシェルジュデスクなどの考え方は。

委員長：螺旋と公園という感じだ。両方似ている。

委員：元倉さんのは、ちょっとわかりにくい。

委員：この螺旋で建物がこうなってしまった。

委員：ある階まではオープンだけれども上はダメということもできる。

委員：将来、市役所は土日もあるのか。

委員：もちろんそう。365日だ。いわゆる印鑑証明、住民票、税金などは市役所に来なくてもできるようになる。来るというのは、何か目的があって来るのではなく、来て何か得て帰れるようにしなくてはならないと思う。例えばNPOだとか市民団体とか。盛岡であったが、環境団体に参加しようとして、来て何かを得られるようなものだ。

委員長：そうすると、ここの部分をオープンにしておけばいい。

委員：しかし、協働だというと今の市役所にはそんなことができる人が一人もいないという反論もあるかもしれない。

委員：三鷹市などでは、市役所の窓口を派遣職員で行っている。全部できる、税金の相談から。今度コールセンターを市役所でやるのだが、それもNTTの職員だ。マニュアルをつくって、めくればそこに答えが書いてある。だからそういう時代ではないのだろう。

委員：つまり一番成長的。半年たったりすると、内部の職員よりよくできる。

委員：ただ2割くらいのごく専門的な部分で職員を置いておく必要がある。

委員：それが職員でなければならぬかどうか分からないが。

委員：コンシェルジュデスクにはベテランがいるはずだ。

委員：病院などはもうNPOでやっている。

委員：NPOだと地域のことがよくわかっているかもしれない。

委員長：NPOとかボランティアのような質の高い人達ならいい。そういうのが市民の中で芽生えてくればいい。

委員：市役所の方はやっぱり市民のことを知っている人が多くて感心する。

委員長：一方では自分の仕事以外のことがわからないことも多い。

委員：ライフサイクルだけで、建築のコストはどうするのか。

委員：建築のコストも含めて。

委員長：コストの妥当性というような感じで、あまり最初からやっていくと後で高くなることもある。

委員：一番危惧するのは、3番目ぐらいの質問が終わって、既に23分経っていたりする場合のことだ。20分が30分くらいならいいが、1時間になってはまずいだろう。

委員長：口頭で、一つ5分くらいで終わりたいと言わなければまずいだろう。

委員：質問の方が長かったと言われないようにしないとイケない。

委員：応募者もある程度想定質問は用意されているだろう。そうするとコストなどは必ず聞かろうと想定している。

委員：しかし、市民の方は聞きたいだろう。

委員：答えがちゃんと簡潔に来るかなと思う。

委員：逆にコストを聞かれると難しい。一般には予算があって収まるようにやりますということで話は終わるが、具体的に言うとなると難しいだろう。

委員：時間の問題もあるが、槇さんの時にはゾーニングの話は聞かなくてもいいか。

委員：こういう絵があるので、最初のプレゼンで説明されるのだろう。ここはむしろそれが中心のような感じだ。

委員長：住宅地が将来市街地に変わるという見方はあるか。

委員：沿道は変わるが、あとはそれほど大きなものはないだろう。

委員：これはどのくらいあるのか。

事務局：敷地の幅が150mくらいだ。

委員：これがある意味緊密になっている。

委員：入口に雑木林がある。

委員長：あまり高さを高くしないような雑木林と書いてある。

委員：曾根案は分庁舎になっているのではないか。

委員：曾根案は議会の位置がここにある。他は比較的市民広場に近い位置にあるが。

委員：議会がちょっと上になっている。

委員：このとおりにはならないのではないかと思うのだが。

委員：槇さんの議会はどこか。このウイングか。議場と書いてある。茶色で塗ってある。やはり市民の代表だからか。

委員：市民に見せるとか開放するとかいう話があったが。

委員長：ここから見下ろせる。

委員：槇さんのゾーニングは聞かなくてもわかる。

委員長：議会が使っていないときは、コンサートなどをやると書いてある。

委員：曾根さんの案は裏書きをある意味明解にやっているのではないか。そのことによって例えば、建設系と書いてあるが、ここでほとんど間に合うと考えているのだろうが、コンシェルジュから延々と行かないと着かないというのはある。

事務局：多分、機能はしっかりと分けていると思うが。ここに用事があればどうしても行かなければならない。

委員：ちょっと動線が長い。

委員長：もうちょっと前に出しますと言えれば終わりか。そう、もうちょっとこっちに寄れば。

委員：移動してもいいのか。

委員長：基本的な構想は、市民の方に認めてもらって、そこから先は話合っ柔軟に対応すると書いてあった。

委員：もっと距離があるのではないか。

事務局：このバランスからいうと中庭を結構広くとっている。

委員：しかし、市民ホールよりへこんでいる。

委員：道路の反対側にも木を植えている。

事務局：これもよくよく見ると縦と横の比を変えている。別件だが、12点のパネルを12時からホールに展示する予定になっている。撮影禁止の表示だとか、職員がつく。展示するに当たって、提案書の書き方について一緒に展示する必要があるか。

委員：了解はとれているのか。

事務局：報奨金の話のときに確認している。

委員長：募集要項は出した方がいいのではないか。

委員：建築家の様な人が募集要項について質問されたらこれを見て下さいということでもいいのではないか。

事務局：プレゼンテーションは、榎氏、曾根氏、元倉氏の順となった。担当課長の司会で、抽選で決まった旨は伝える。流れだけ説明すると、冒頭に今日のスケジュール的なものを話して、その後に選定委員の皆さんの紹介をさせていただく。紹介は、選定委員、応募者、また市長、牧田助役、議員、市民委員が傍聴されていることを伝える。その後寺田市長から挨拶をいただいて、次に委員長から挨拶をいただきたいと考えている。その後、担当部長からこれまでの経緯的なものを説明し、プレゼン・ヒアリングにかかりたい。プレゼンやヒアリングの時間、順番については私のほうから説明し、その後委員長に進行を引き継ぐ。プレゼン・ヒアリングの進行をお願いします。

プレゼンが終わったら、別室の方に移動して審査をお願いします。審査結果が出たら、本庁に移動し、市長に報告していただきたい。報告の後、講評にむけての協議がある。

委員：結果が1時間でできるかどうか。採点して、持ち寄って集計するかなど、その辺を確認しておいたほうがいい。総合判断、利点・欠点を協議して全員合意ということか。この項目に従って議論すればいいのではないか。

事務局：プレゼン・ヒアリングが終わったあと講評していただくことになっているのだが。いわゆる締めということで。

委員長：他市の例では、市民が帰る前に、審査委員がどう思っているか一言づつ言っていたが。

事務局：委員長からコメントをいただけないか。立川の場合は委員長から始まり、それぞれのメンバーがコメントしていた。個人によって言い方がまちまちだった。

委員：難しい。基本的には委員長が代表でコメントすればいいと思う。

委員：発表者は聞きたいだろう。

委員：それぞれの案を褒めることはできるだろうが、あまり意味がなさそうだ。

事務局：では、基本的に、ご苦労様でしたということを中心に。

委員長：挨拶の中でQBSとプロポーザルなどについて触れておく必要がある

か。それは事務局が、経過のなかで触れるのか。

事務局：簡単には触れておきたい。現地審査も、説明する。

委員長：それに触れてもらえれば、審査員としての感想にする。

委員：12案の中から、3案共通したものを選んだところはあると思う。これらを選んだ視点のようなものは、市民に伝えるのだろう。

委員：町田とか地域の状況で選んだことは言える。

委員長：街並みとか地域の読みとり。類似性をもったものは比較しながらよりよいものを残していった。

委員：類似した3つが残った。違いは、議論の中で出てくるのだろう。

質問項目

質 問 項 目	
1	周辺・街並み
2	空間構成・ゾーニング
3	構造・構法・設備計画・環境・サステナビリティ
4	ライフサイクルコスト
5	参画・設計・柔軟性
6	町田らしさ

終了

《プレゼンテーション・ヒアリング》

日 時：2006年1月21日（土）午後1時から午後4時
場 所：町田市民フォーラム 3階 ホール
選定委員：三井所委員長、高見澤委員、河野委員、松川委員、加島委員
応募者：榎文彦（若月幸敏、福永知義）、曾根幸一（西海哲哉、大串辰雄）、
元倉眞琴（今川憲英、高間三郎）
事務局：渋谷新庁舎担当部長（経過説明）、石川新庁舎担当課長（司会）
資 料：プログラム
町田市新庁舎建設計画に関するこれまでの経緯
アンケート
簡易提案書写し

・抽選の結果、プレゼンテーション・ヒアリングの順番が以下のように決定した。

順番	（受付番号）応募者チーム名	プレゼンテーション・ヒアリング時間
1	（9） 榎文彦チーム	13時20分～14時
2	（24） 曾根幸一チーム	14時10分～14時50分
3	（25） 元倉眞琴チーム	15時00分～15時40分

以下のとおり進行した。

- 1 市長挨拶
- 2 町田市新庁舎建設計画に関するこれまでの経緯に関する説明
- 3 委員長挨拶
- 4 プレゼンテーション及びヒアリング
- 5 委員長コメント

<市長挨拶>

皆さんこんにちは、ご紹介いただきました市長の寺田でございます。

まず、最初に審査委員の皆さんにご挨拶申し上げます。今日は3次、いわば最終の審査ということになるわけですが、今まで大変長い間、大変ご苦勞いただきましてほんとうにありがとうございました。市役所を新しくつくるということは、町田市にとりましても、おそらく50年、100年というスパンの中でも大変重要な仕事でありますけれども、そのような非常に、極めて重い課題に大変熱心にご参加、ご從事いただきましてほんとうにありがとうございます。本日はまた、雪の中ご苦勞様でございます。是非最終のご審査のうえ、結論を出していただければありがたいと思います。

それから、本日最終のご審査に残られた3者の皆さん本当にご苦勞様でございます。これまた、色々な経過をたどりながら、最終にお残りになられたわけで、いずれも素晴らしいプランであると思います。

どうぞ本日のプレゼンテーションで、その成果を裏付けいただきまして、よろしく願いいたします。

それから、会場にいらっしゃる皆さん方、近年珍しく、ほんとうに寒い中をご熱心に、たくさんの皆さんに参加いただきましてありがとうございます。

先ほど申し上げましたように、市役所の新庁舎の建設というのは、町田市にとりまして極めて重要なプロジェクトでありまして、このようなことはめったにないわけでありまして、やはり将来の町田市をつくる、決める、未来を先導するという意味でも極めて大事な仕事だというふうに思っておりますし、昨今いろいろと、災害問題もあるわけでありまして、私ども、大きな期待と緊張感で臨んでいるところであります。どうぞ、公開ということで、本当にクリーンで公正な審査を進めているわけでありまして、どうぞご理解のほどお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。どうもありがとうございます。

<経過説明>（渋谷新庁舎担当部長）

皆さんこんにちは、今日はお足元の悪い中、ようこそおいでくださいました。それでは私のほうから、これまでの新庁舎建設計画に関します経緯につきまして、ご説明させていただきます。

お手元に、先ほどご配布申し上げました資料の3枚目、プログラムの次でございますけれども、その資料が町田市新庁舎建設計画に関するこれまでの経緯という資料でございます、それに基づきまして概略をご説明申し上げたいと存じます。

そこにもございますように、現在の町田市の本庁舎は昭和45年に開庁いたしました。当時、町田市の人口は18万人ほどございましたけれども、その後、人口急増に伴う事務量や職員の増加、そういった事情に伴いまして、庁舎の狭隘化、それに伴う庁舎の分散化、あるいは設備や機能の老朽化、さらには阪神淡路の大震災を契機に表面化した耐震性能の不足等が問題として生じまして、行政や議会を中心に庁舎の増築計画などの検討がなされてまいりました。

平成11年に、森野2丁目でございます、現在の新庁舎建設用地の購入後は、お手元の資料にも書いてございますように、議会あるいは行政・市民・学識経験者によりまして庁舎問題の検討が具体的に始まりまして、平成16年の3月の議会では、森野2丁目への庁舎の移転条例が議決されたわけでございます。さらに同じ年の6月には、それまでの庁舎問題の検討に基づきまして、新庁舎建設の基本構想が策定されまして、それを受けて、やはり同じように議会あるいは行政・市民・学識経験者によりまして、新庁舎建設の基本計画の検討が行われまして、昨年5月に策定されました。そして、現在は一番下になりますけれども、基本計画の次のステップである基本設計の設計者選定が行われているというわけでございます。この設計者選定は、設計者選定の実施要領に定める通り、資質（適正）評価型簡易提案方式という方式を採用いたしました。この資質（適正）評価と申しますのは、設計者選定に対する応募者が、先ほど出ましたような新庁舎の基本構想ですとか、基本計画をどう理解し、どう設計に反映しようとしているのか。また、設計実績を、自分の設計実績を町田市の新庁舎でどのように生かそうとしているのか等につきまして、文章並びに概念図あるいは過去の作品現地審査などによって評価しようとするものです。また、簡易提案と申しますのは、応募される方々の負担軽減を図り、設計案ではなくて人を選ぶといういわゆるプロポーザル本来の趣旨を重視したものでございます。応募者にご提出をいただく資料につきましても、これらの趣旨に基づきまして、限定されたもので調整するように求めています。

そこにもございますように審査は3段階で行われまして、当初の応募者48者のうち、12者が第1次審査を通過いたしました。第1次審査では、町田市新庁舎に対する基本的考え方や設計実績の内容などにより評価を行いまして、続く第2次審査では、新庁舎の設計方針などの簡易提案書に基づきまして評価が行われました。この簡易提案書につきましては、このホールの入り口のところに展示いたしましたので、後ほどご覧いただければと思います。

そして、この12者のうち3者が第3次審査に進むことになりまして、1月の6日と11日の両日に作品現地審査が行われまして、本日を迎えたわけでございます。

新庁舎建設の基本計画におきましては、新しい庁舎のオープンは平成23年度となっております。まだまだ先は長いわけですがけれども、新庁舎計画につきましては、今後も町田市の広報あるいは町田市のホームページにおきまして逐次お知らせをして参りたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。説明は以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

<三井所委員長挨拶>

委員長をおおせつかっている三井所でございます。この町田市の新庁舎計画には、市民の多くの方々が委員となったり、あるいはその委員をサポートするような形で、地域の方々が参加の動きになって、それから、庁舎の役所の方々も大勢の方が参加されて基本計画がまとまったというようなことで。そういう基本計画のまとまりに基づいて、次の計画が進むというようなことは大変めずらしいことではないかというふうに思いますが、市民社会を目指している町田市らしいなと思っておりまして、それに参加され、ご協力いただいた方々に深く感謝申し上げたいというふうに思っております。

また、コンペといいましょうか、今回の競技に関しましては、できるだけ多くの方に参加できるようなチャンスをつくりたいというふうに思っておりまして、これまでの経験で、5,000㎡以上の建築の床面積の経験者というようなあたりをどうするかを皆で話し合いました。3,000㎡まで下げてやってみようということにいたしました。

それによって、48の方、あるいはグループから提案をいただきました。大変に多い応募があったと思っております、それにも大変感謝しております。ただ3,000㎡まで下ろしますと、相当多くの方が参加できるので、大勢の参加するようなものには参加したくないとお断りになったというような噂も聞いておりまして、なかなか難しいものだというふうに思ったりいたしました。

何らかの事情で応募の途中で断念されてしまったり、なされた方までを含めて、想像しますと相当大勢の方が、建築家が町田市の新庁舎にご関心を持っていたというふうに想像いたしますと、ほんとにありがたく、感謝申し上げます次第です。

選考は、先ほど、事務局部長から説明がございましたように、二つの性格のもので行いまして、QBSの話とプロポーザルの話でございます。

とにかく、結果的には素晴らしい建築家たちの応募をいただいたものですが、48から10ぐらいに絞ろうというふうに目指していたんですけども、これも少し増えまして12案ということになったんですが、地域の読み取りとか、あるいは市民社会への姿勢とか、基本計画に盛り込まれている様々なことがございますが、というようなことをベースに選らばせていただきました。12案に絞った後、さらに第2次の3案に絞るということはとても難しく、これは至難の業でございました。とにかく、みんな張り出してありますように、大変熱心で、丁寧にお考えになっている。この地域の読み取りとか、基本計画の読み込みとかということに関しては、とにかく皆素晴らしいということなので、どうやって3つに絞るかということは、大変難しかった訳でございますけれども、色々検討して、その中で、人を選ぶんだということで、案があまり固まりすぎていないというようなものを選ぼうということにいたしました。これは、市民参加によって、いろんな案が出てくる、提案が出てくるだろうから、それをできるだけ柔軟に受け止めていただいて、そして、それを基に構想を固めていただくという必要があるということでもありますから、固まりすぎて

いると難しいかなということ、比較の問題でございまして、絶対的なものではないものですから、なかなか難しいんですけども、そういう意識を十分持って選びましたのが最後の3案になったというふうに私どもは認識しております。その12案の中でも入選案ということで、整理してあるので、区別してありますけれども、4案の入選案がもう既に決まっております、その入選案という位置づけも、建築家の方々が町田市に向けて努力していただいたことを今後とも何らかの実績として残していただけるようにという想いもございまして、入選ということの数をつくったわけでございますけれども、これも当初の予定よりは少し増えました。とにかく肉薄している案の中で絞り込むことが難しかったというふうに思っておりますけれども、その責任は全てこの5人の中にございまして、評価の視点とか色々あるかと思っておりますけれども、今日に至ったわけでございます。

そういう意味で、住民参加というキーワードといたしましうか、今回の競技のすごく重要なことで、選考のところでもキーになったわけでございますけれども、たぶんデザインの中でもキーになっていくだろうなというふうに思っております。そういう意味で、従来の専門家として自分の構想をまとめるということだけではデザインができない建物だと思っておりますし、とても先端的なデザインでのチャレンジをお願いしなくてはいけないというふうに思っている次第ですけれども、そういうことがこの町田から始まったりするということを認識して進めていきたいと思っております。今日は最後に3者の皆さん、会場の皆さんどうぞよろしく願いいたします。

<プレゼンテーション及びヒアリング>

<プレゼンテーション>

1 槇文彦チーム

(槇氏)

私、槇事務所の槇と申しまして、それから若月、福永です。

それでは、まず最初に配置計画について提案させていただきます。

今回、敷地は広うございますが大きな建物であるということで、印象、風情につきましては非常に綿密に分析をいたしまして、その結果、この後方のほうに中高層の建物をつくり、前面に市民利用の活発な部分を低層で配置するというのにいたしました。また同時にですね、この町田市の通りは非常に、この箇所ので交差点で車が渋滞いたしますので、基本的に我々の車両・車は、南側の方から出入りするということを考えました。また同時にですね、この現在の町田市民ホール及びこの住宅棟に対する寄り付きは、側道の方から入るといふように考えます。ただし、緊急時にはですね、この二つの道はこの部分で繋げることができる。一体化することができるということを前提に考えております。

それから、庁舎プロパーの入り口はこの赤いところで分かりますように、3箇所から考えております。ただし、庁舎プロパーに入りますともう少しセキュリティのチェックも可能であり、というようなことで、市民利用の部分とそれから庁舎プロパーの部分がそうした形で明解に区画できるような配置を考えております。

また、一方、先ほど申しましたように、かなり大きな建物がありますということで、特にこちら側の住居地域に対しては、十分な、ここに緑を用い、さらに低層棟があつてその後ろに高層棟があるという形で配慮を行っております。また、こちらに住居棟がございまして、ここは当然、この庁舎と合い向かう形になります。私たちよく経験していることでありますが、一番住民の方が気になさるのは、心理的にいつも覗かれているんだ。で、そういうことに対して、ちょうど庁舎のちょうどこの部分、後ほど詳しくお話いたしますが、緑の柵をつくりまして、グリーンによってそうした覗かれているという心理的な考えをできるだけ少なくする。同時に私たちがここに提案しております立駐につきましても壁を緑化する。これはまあ最近いろんな工法があります。水が適当であればさほど難しいことではありません。この面も緑化するということで、住民の方に対しても十分にそうした配慮を行ったものにしたしたいと思います。

一方、ここにありますように駐輪場につきましては分散配置。それから当然広いここに緩衝地帯がございまして、十分なタクシーの寄り付きなどは、この正面の入り口の前に設けるといふことにいたします。

その次に、ここに、実は私たち巴形ということをお今回のコンセプトにいたします。なぜ巴形かといいますと、これ見ていただくと分かりますように、2つの非常に同じ形の、しかし、それ自体では完結していない形なんです、密接にお互いに補完的な関係を持ち合いながら最後は一つに、あの、世界をつくっ

ていくというのが特徴です。と同時にこの形の特徴は、非常に長い接触線、コンタクトゾーンを持っているということ。これは、私たちが、要項を読ませていただきますと、今回、市庁舎、それから市民利用の空間のあり方を示唆しているのです、その結果ですね、ここにありますようにブルーがオフィス、それからイエローウオーカーが市民利用スペース。その間に、接触するところとしてフォーラム、つまりワンストップロビーであるとか、それから要項にありますように、議場は市民利用を考えるようにして欲しいということで、ここは今ちょっとイエローウオーカーになっていますが、ここがいわゆるそうした接触ゾーンになっているというふうに考えました。同時に緊急時に、この市民利用の空間が直接この部分にアクセスできる。おそらく司令塔である議場。それから私たちはこの後ろに市長、助役、議員の方々の部分を想定しています。こちら辺がそういう司令塔の部分になってくるだろう。

それから大事なことはですね、私たちが設計をしますときにやはり、好ましい風景、情景を想定いたしましてどういうふうにそれが空間体制に。例えばですねウイークエンドに市民協働の空間がありまして、そこが終わってくると下にギャラリーがある。それから入り口の向こうに天蓋がある広場をとるようになっていきますがそこには道がある。その奥にカフェがある。それから市民交流スペースがある。まあ、特にウイークエンドなどはですね、もしかしたら、ある庁舎の部署の方がここへ出てきてサービスする。まあそういうのはこういう接触面が多いことによって可能になり、かつそういう様々な市民の方の利用が増えてくる。そういう空間対応をここに提案した。

これがどうやって好ましい、ヒューマンな街並みの構成に繋がるかということで、こちらに私たちがやりましたヒルサイドテラスの情景であります。この前の部分というのはほぼ10mぐらいの高さの、しかし、いろいろと変化がある、そういう部分をつくってある。ちょうどこの部分は200m。それに対して公園250mある。ほぼ、豊かな空間につくってあると同時にここは、後ろのほうから車が入ってまいりますので、この部分のちょうどローディングデッキに使われている部分が、例えば、この部分は全体として賑わいがある部分として繋がってくる。

それから、審査委員の方々には、YKKのR&Dを見ていただきましたが、あそこでも割合と小さな街並みの中に突然大きな建物がある。じゃあどうすればそれに対してヒューマンなものを与えることができるかということで、覚えてらっしゃるかもしれませんが、手前のほうに低層部分、それから大きなアトリウム。それからあそこには緑。カフェを持ってきたんですが、最近聞いたんですが、北斎美術館が区が運営してできるんですが、あそこにカフェが欲しい。そういうことを聞きまして、私は大変うれしく思っています。今回は立場が逆であります。これからのまちづくりの中では、そうした官民の一体のものが必要であり、そういうことがお互いに刺激できる、そういうような空間づくりということを念頭に置いて考えております。

それからもう一つ、かなり大きな私たちのテーマといたしましたのが緑化であります。また、詳しく、緑化の環境的効果については、説明いたしますが、ここにありますように、まず、緑の並木をつくる。それからこの部分に、上に

ゆっくりとした緑の、屋上庭園がある。それは先ほど見ていただいたYKKに通じるものがありますが、そうして、この上に、3階のところには丹沢への眺望のきく庭園を設ける。ただそれだけではなくて、先ほど申しましたように、ちょうど住宅棟に面します東側には緑の棚を、また、一方こちらはちょうど西に向いております。ここに小さなアトリウムをつくり、そこに植物を植えることによって、この建物全体に対してもう少し柔らか味のある表層をつくることができたらいいなと考えております。

この後実例ということでありますので、これは私たちの協力しておりますオンサイトという事務所が屋上庭園を考えて、まあこういうところにそういうことを考えることができますし、先ほどお話ししました屋上庭園、ちょうど私たちのYKKを想定していただければ結構だと思います。ちょうど位置が、風景をここに描いておりますが、これがヒルサイドテラスの屋外空間で、20m区画で、この辺で考えていますのがほぼ25mで、もう少し大きゅうございますが、このヒルサイドテラスでは、やはり秋と春のお祭りの時には御神輿が、それからクリスマスには教会の人たちがここでクリスマスキャロルを歌います。それから色々市も立ちます。というようなことで、このコーナーの部分にそういう市民の様々なアクティビティーが演出される場所を考えております。これがちょうどこの後ろにありますカフェです。

それから、これが議場であります。この議場は多目的ホールとして市民利用もできる。例えば音楽会ができる。この写真は福岡大のコンサートホール。あそこは非常に学生さんがオーケストラに熱心。したがって学生ホールの中に、こういうホールをつくりました。やはり、おそらく最終的な形態は違うと思いますが、できるだけ暖かい、木を使った、そういう議場を想定しています。

(若月氏)

続きまして、上層部オフィスの環境計画ですが、方位によって日照や周辺状況が違いますので、それに応じた外装のシステムを提案したいと思います。これは快適なオフィス環境のためですが、同時にそれを建物の表情に積極的に参加させようと考えています。アトリウムは西日対策のためルーバーを計画します。また、緑の棚は外からも一体的な緑が見え、壁の部分はというように表層が分節化されます。具体的なデザインはこれからですが、このような外装により表情の豊かな庁舎がつけられるのではないかと考えています。

オフィスの内部空間については、アトリウムと緑の棚はオフィスにとって緩衝空間であり、いわゆるダブルスキンになりますが、他の部分も外装を二重化し、熱環境の制御と外部騒音の防止を図る予定です。

平面計画については、コアを除きましてできるだけオープンにつくり、明るく透明感のあるオフィスを提案したいと思っています。そして、部屋が必要な場合は、システム間仕切りを用い、将来の配置替えに柔軟に対応できるように考えます。この写真はロレックスビルですが、この場合もシステムパーティションと調光ガラスのダブルスキンを採用しています。

次に全体の環境計画ですが、まず、フォーラム、アトリウム、緑の棚という特徴的な空間を生かして環境計画を考えたいと思っています。3つの空間は、

ともに天井が高く空気の誘引効果が期待できますので、中間期から夏にかけては熱気を排出し、冬は暖かい空気を暖房に再利用する計画です。また、フォーラムは広がりがあるオープンな空間なので、人に近い部分で輻射冷暖房も行う、いわゆる居住域空調を考えたいと思っています。これらの空間は透明性があり、様々な場所から屋上庭園やアトリウムまた、外周の緑など、豊かな緑が感じられる空間になると思います。

次に、安全に誰もが利用できる環境づくりに関しては、災害時を考慮してコージェネレーションと電力の貯蔵を行い、エネルギーの効率化とともに非常時の電源を確保します。また、雨水は地下に貯めて中水として利用するほか、町田市でハザードマップが示されていますので、雨水の調整槽を計画します。また、市庁舎は様々な方が利用される施設ですので、当然ながらユニバーサルデザインを徹底化したいと考えています。構造については、庁舎機能の早期回復、また、利用者の安全を観点といたしまして、確保するために制震又は免震を検討する予定です。

周辺環境については、既に説明いたしましたように、西北側の住宅地への日照を確保し、緩衝緑地を設けて住宅地から十分な距離をとります。一方、集合住宅側は緑の棚によってプライバシーに配慮するほか、駐車場を緑の丘のように計画する予定です。そして、このような総合的な計画によりまして、環境性能評価システム、CASBEEの評価で高い環境性能をめざしたいと考えています。

(槇氏)

それでは、私が最後に、あと3分ほどございますが、ここに既にお見せしたいくつかの建物の風景をもう一度持ってきておりますが、私たちずっと長く建築をやっておりまして、やはり、どんなに建物が大きくても、あるいはどんな種類の建物であっても、あるいはどんなに現代の新しいハイテク技術・素材を使っても、最終的には、やはり、そこにこられるユーザーの方が親しみをもって使っていただける。そういうものを絶えずめざしてまいりました。建築というのは常に失敗と成功の集積であります。そういうような長年の色々な試みを踏まえまして、その都度どうすればよりベターなものができるか。そういうようなことをずっと考えてまいりました。

今回の町田の市庁舎も非常に様々な空間がある、様々な場所もある。そういう中で一つ一つの場所について、先ほど申しましたように、どうしたら好ましい情景・風景が演出されるのかということ念頭に置きながら、そうした今までの経験を活かしながら今回の新市庁舎の設計に向かって行きたい、そういうふう考えております。どうもありがとうございました。

<ヒアリング>

(三井所委員長)

それでは、こちらから少しご質問をさせていただきたいと思います。どうぞよ

ろしくお願いいたします。

質問：河野委員

私の方からまずご質問させていただきます。お話の中でも触れてあったと思いますが、この計画案の中で、町田という地域の特性というか、あるいは街並みの絡みの話なんです、駅からのこの地域までの全体の景観的な、どういふふうにまずそれを捉えておられるか、そこにどういうものを景観的に、デザインの的に置いていこうというお考えなのか。

回答：楨氏

一番先に考えましたのは、先ほど申しましたように、この部分は約200mという長さに渡って一体な、まあ一つのアンビエンスを持った場所をつくる非常に絶好な機会でありましたので、その中で、まず豊かな並木をつくることで、この道沿いに一つの景観を与える。同時に、そのすぐ後ろに低層棟のものを持ってきてまいります。やはり我々のヒルサイドの経験ですと、そういう豊かな前庭、ま、これは屋上なものですから、それがあってによって様々な新しい空間の使い方、あるいは、賑わいが刺激されるであろうということでありまして、一番左側にまず小公園をつくり、それから先ほどお話ししましたように、この町田市民ホールとこれをつなげてまいります。ただし、高さにおきましてはこちらの方がもう少し低層になってるわけですが、私は、街並みを形成するということは、必ずしも全部が同じ面にそろって、しかも同じ高さでどうこうするというのではなくて、むしろ、今いいました様にヒューマンな、親しみのある市庁舎をどうしたらくれるか、そういうことを念頭に置きながら、なおかつ、ここにはもう少し他の所とは違った場所が生れてきたという感じにしたいと思っております。

回答：福永氏

私、ちょっと補足させていただきます。実は私若いころ町田に住んでおりました、若いころ非常に賑わいのある、魅力のある街であったなという記憶がありますが、ただ、やはり街の魅力、ただ賑わいがある、面白いお店がある、そういうことではなくて、魅力のある街、町田に住んでいる方々が、自分たちの誇りに思える、魅力のある街をどうつくったらいいか、これは実は皆さん話し合いながらまちづくりの一つのきっかけをつくりたいと思っておりますが、私共今から20年程前、十数年かかって、事例でもお出ししましたが、富山で大手モールというまちづくりを十数年かけてやってまいりました。やはり、市民の方、市の関係者の方、県の方、交えてやはり十数年かけて街づくりをやってまいりました。その中で、市民プラザという市民参加型の施設もつくりましたし、国際会議場もつくりましたし、それで大手モールという正面、お城の公園を整備した。やはり、代官山ヒルサイドテラスでも30年近くかけてきた。そういう長く皆さんと街づくりをやっていく一つのきっかけとなればというテーマでもある。そのこのこの200mのこの街並みを一つのモデルにしながら、ここから駅までのモールをどうして行くか、それから駅から反対側の比較的賑わいが

あるけれども街としての魅力はどうか、というあたりをみんなで考えて行きたいと思っております。

質問：松川委員

先ほどお話にも少し出たと思いますが、庁舎というのは非常に様々な方が来られる建物なので、来た方にとって分かりやすいという意味でも空間のゾーニングというのは非常に大切だと思いますが、それに関連して、二つほどお尋ねしたいと思います。分かりやすさを保障するという意味で絶対に譲れないものというのがあるのかどうかということと、それから市民のスペースと議場の位置というのが、槇さんの案の場合非常に近い、とても近いという意味では基本構想や計画にあっていると思うのですが、どの程度実現が可能なのでしょうかというのをもう少しおっしゃっていただきたいと思います。

回答：槇氏

最初のご質問は、私たちが是非メインテナンスしたいというところは、やはり、このコの字型の市民利用空間を中心とした層をつくり、その後ろに庁舎を構える。ただし、この市民利用のあり方につきましては、さらに、これはあくまでダイアグラムございますから、皆さんと相談をしながらどこに協働空間があるのかがいいのか、そういうことに関しましては十分にお話し合いをしていきたいと思えます。

ただ、二番目の議場につきましては、これは要綱に非常に明解にですね、これはできれば、例えばウイークエンドか何かに市民利用にも使いたいというようなことであれば、できるだけ近接した方がいいのではないかと。それから同時に、私たちの方の考えなんです、例えば緊急時に議場を中心にした市長、助役その他の方々のいらっしゃる場所が司令塔になります。これもできればそんなに遠くないところにあって、私たちは今、防災センター的なものもちょうどこの後ろのこの部分に考えておりますし、そういった意味で、まず議場の位置はこういう場所、特に市民の方にとって明らかに、ああ、あそこが議場だというのは悪くないです。と同時に先ほど申しましたように、市民利用の時には、例えば夜であるとかウイークエンドであってもごく簡単に行ける。先ほど私ここでアプローチが2箇所あると、こことここと申しましたが、ちょうど議場の裏手あたりに1階から直接アプローチできる入り口を考えておりますので、夜間ここが別段的に使われるときには、簡単にこの部分だけをセキュリティーをしてやるということがいいのではないかと考えています。

質問：三井所委員長

それでは、私から質問させていただきますが、庁舎の建物というのは先生がおっしゃいましたように、1年間親しみを持って近づけるようなものでなくてはいけないと思っております。

愛着を持ったり、別の意味では信頼性みたいなものも必要であろうというふうに思って、また一方では市民社会の何か品位みたいなものも必要ではないかと、たいへん、そういう意味では多くの方が利用するということと品位

というようなことをつくり上げていくことがこれからの課題という気がするんですけども、そのときに、近代建築というのはどうも脆弱性が強そうな気がするんですね。壊れやすそうな感じとか、汚れやすそうな感じとか、清掃しにくいとか、そういうような部分が結果として愛着とか信頼性とかを欠くことに繋がる気がするんですが、最近、サスティナブルという言葉も使われますけれども、建物が持続するという意味で、材料やものの組み合わせ方などもとても大切なことではないかと思っているんですけども、何か庁舎に対するそういう部分での何かご見解、お考えのところは何でしょうか。

回答：槇氏

庁舎建築というのは、歴史的にはタウンホールというのが、主として西欧諸国だと思えますが、ありまして、非常にシンボリックな建物が、非常にシンボリックな場所にありまして、ちょうど日本でいいますとお城とか神社のような性格のものがずうっとありまして、日本の場合には若干、近代化の中で始めて庁舎というものができてきて、それなりの今三井所委員長が言われましたような類型というものができてきて、常に、ただ我々の場合にはチャレンジでありまして、いったい庁舎建築は何なのか、そういう定型というものがない中で、今おっしゃった親しみがありながら、なおかつある種の象徴性のあるものが、新しい現代的な材料の負担ができるかどうかとそういう問いではないかと思えます。

それに対しましては、先ほど私たちローレックスの例でもちょっと説明させていただきましたように、比較的中からは大変穏やかで使いやすいものにしたと思います。外につきましてはですね、一方においてやはり現代の庁舎というものが、どちらかというとな機械的で、のっぺりしてて、何か性格のないものだということに対して、どういうふうに配慮するかという中で、実は緑の棚、あるいは吹き抜け空間ということによって、そうした比較的均一である空間というものをブレイクアップしたい、スケールのブレイクアップしたい。

それからちょっとこれでは分かりにくいですが、上のほうにデッキがございますように、やはりルーフというものに対してもう少しある性格を持たせた方がいいのではないかと。ではどんな性格を持たせたらいいかというのは、これから我々がチャレンジしていかなければならない課題だと思いますが、やはり申しましたような表層の変化、それからルーフ、ちょうど空に一番の、空に繋がるところにはっきりとした性格のあるものを置いて。まあそういうようなことと、どちらかというとなガラスの多い建物だと思いますが、先ほどお話しましたように十分にサスティナビリティということを考え、あるいはルーバーがあり、ある種の憩いがここに生まれる。そういうようなものを念頭に置いて設計していきたい。

質問：加島委員

私のほうから質問させていただきます。今もお話ありましたように大きなアトリウム、階段状の建物なんですけど、一番私共で心配しているのは建設のコストがかかるのではないかと、それから大きなアトリウムというのは美しいんです

が、維持管理経費が相当かかるのではないかと、ということでライフサイクルコストについてどのようなお考えでいられるかをお聞きしたい。

回答：福永氏

コストですが、私共、全体のボリュームの中で、アトリウム空間については、全体のゾーニングの中で、この部分だけに絞ってあります。この部分の、先ほどサステイナブルの説明の中で、環境コントロール、なるべく自然環境、日射をコントロールする。そういうことによってアトリウム部分の負荷、熱負荷を取り除こうと、そして、実質的にはオフィス空間完全に切ってしまうということで、アトリウムを抱えることによって維持管理が非常に大変だということはないです。

それからやはり、コストに絡みましては与えられた条件、プログラムとかコストとかを含めそれらの中で建築・設備・意匠、総合的にバランスをとってコスト計画をして建設費用を抑える、ともにやはり先ほどいろいろ工夫についてご説明いたしましたように、維持管理費を抑え、そしてさらに将来の改修とか設備の更新とか、さらに一部建替えとか、そういったことも含めて、先ほどお話のありましたトータルなライフサイクルコスト、それはこれから設計を進めながら対応していかなければならない。トータルなライフサイクルコストの適正化を実現したいと思えます。

質問：高見澤委員

質問させていただきます。私、町田市民でもございまして、基本構想とか、基本計画を長年かかってやってまいりました。しかし、まだまだ検討が十分でない、あるいは状況で変わってくることもあるので、今後の基本設計においてもかなり色々な新しい条件も入るかと思えます。それには市民や行政の方々の参加を得てということになるんですが、それに関して、2つ伺いたいんですが、1つは参加の仕方を、今後、具体的にどんなことを想定されているかということが第1点。第2点は、しかしさりながら、聞いた意見を入れて無理して設計していけばいいんだという問題でもないものがございましてね。やはり、設計者の原理・原則とかポリシーとかその辺の柔軟性といろんな要望とをどう兼ね備えて設計を進められるか。市民参加の具体的なことと設計者のポリシー対市民要望、その辺のところをちょっと伺いたい。

回答：若月氏

先ほどまちづくりについて、説明いたしました、つい近年行いました広島県三原市のワークショップをやったのですが、ここで、一般公募の市民の方を入れまして、十数名の委員という形で、設計の段階で、1ヶ月から2ヶ月に1回、テーマを決めて、私共のモデルプランを基に皆さん議論していただく。やはりモデルプランを基にいろんな意見をいただく、そしてそれを議論してまとめていただく。

そのテーマは、大きくはまちづくり、プログラム、それから市民利用について、それからバリアフリーについて、運営について。そのテーマごとにまた委

員が少し入れ替わったり、ということになります。そして、具体的になりましたら、基本設計がだいたいまとまった段階で、こういう形で、市民公開ヒアリングを市長さんを交えてやります。実際に会場から色々ご意見、それから常にホームページで公開いたしまして意見をいただく。なるべくそういう市民のご意見をいただく。その時にあくまで私共のこういったモデルプランに基づきながらご意見をいただくという形で進めました。特に公開ヒアリングなんかではいろんな意見を直接いただいて、その場でいろいろ意見交換したりした。最終的には意見と質問と要望をどういうふうに解決していくのかという説明をホームページで流しながら、私共のモデルプランを修正していくという形で成果をまとめました。

回答：槇氏

必ずしもモデルプランは絶対に変えてはいけないということではなく、あくまで最初の話合いとしてモデルプランがあって、それを何回も討議を重ねてどんどん変わっていくといたしますか、基本的な理念を踏まえた上で、フレキシブルに考えて行きたい。そういうようなプロセスをとる。

質問：三井所委員長

魅力的なご提案をいただいているのですが、その中で最も町田市の市庁舎らしい提案とお考えになってらっしゃるのはどういうポイントでしょうか。

回答：槇氏

やっぱりつくったものを見ていただくということで、ああこれが町田市らしかったかと。私達もヒルサイドをやりますときに、いかにこれがモデルになりますかというようなことを考えておりませんでした。いろんなことを考えて、やがてそれが代官山らしさというものをつくり上げてきました。これがやはり、この後、いろんな形で皆さんとお話し合いをし、その中で私たちが、町田市らしさというものを再発見していく。そういうプロセスを経て最終的につくって行きたいと思えますし、いろんな意味で協働してそういう町田市らしさを探していくという部分もあるのではないかと思います。

私はけっして、これがあなたたちの町田市ですというふうに申し上げたくないし、今回のこういったプロポーザルはですね、何か基本的な、先ほど巴形ということで申しましたが、そういう理念をむしろベースにして、これからの協働作業のベースにしたいと思えます。

(三井所委員長)

よく分かりました。予定の時間が、ちょうど過ぎました。これで槇さんのチームのヒアリングを終わりたいと思えます。どうもありがとうございました。

2 曾根幸一チーム

<プレゼンテーション>

(曾根氏)

環境設計の曾根でございます。出席しておりますのは、私共の事務所の西海でございます。それから日本設計の設備をご担当いただく大串さん。それから構造をご担当の日本設計の方、オブザーバーでおられます。よろしくお願いいたします。

私たちの事務所の特徴は、都市デザインという視点から建築を考えてございまして、川崎市などではいくつかまちづくりのお手伝いをしてきています。この町田市の近くでは、多摩センター、多摩ニュータウンでございますが、そちらの文化施設とか、稲城市の体育館を設計しております。それぞれここから10キロぐらい離れた位置になるかと思えます。今回の設計に当たっては、市民との対話という点も大変重要でございまして、デザインだけでなく、技術力、それから対話力と申しますか、そういう体制をもって臨みたいと考えまして、私どもアトリエ事務所のほかに組織事務所、それに大学の研究室との協力体制をつくっております。設計体制とプロセスについては後ほどご説明させていただきます。

この庁舎を構想するに当たって、最初に考えましたのは、形象でなく心象、形でなく心象の庁舎を目指そうとしたことであります。とかく抜きん出た高さをシンボル化する例が多ございますが、我々はそれを低く構えていますが、ここでの活動が心象として残るような庁舎を考えました。

ちょっと唐突な話ですが、昔ギリシャの都市には2つのコア、核があったといわれています。一つはアクロポリスという神託を得るための山の上にてきたものですが、いま一つはアゴラと呼ぶ日常の広場です。ここでは物とか情報が交換されたといわれています。多摩ニュータウンの施設は、たまたま丘の上にてきたために、パルテノン多摩という命名を市民の皆さんからいただきましたが、ちょっと気恥ずかしい名前でございますが、この町田の庁舎は、地形が谷戸のような形になってございます。この日常的な市民の情報交換の場としてギリシャで言えばアゴラのような新しい庁舎、そういうイメージを冒頭に持ちました。

また、この庁舎ができますと周辺の街区も早晚整備されると思えますけども、こういう街並みにも融和する建築形態、それから近隣の緑を取り込むような計画に考えてございます。

配置は、沿道中庭型といいたしでしょうか、道路に沿って3つの棟を配置してございます。中庭の広場は、建物に対して、たいへん求心的な形を持ち、一方沿道に対しては賑わいを保持できるというような形でございます。西棟は日照の関係で3階程度に低くしてございますが、この部分は駐車場と複合しております、屋上は周りからも見えますので緑化したいと考えてございます。同時に、現在市民ホールがございまして、こちらとの連携もうまく取れるような形、配置を考えたいつもりです。

車の動線は、指定された位置から入ってございまして、一方は、タクシー回しが入り口にございまして、一方は直進しまして、南棟を経て横浜線のほうへ抜けるルート、もう一つは右折しまして、ここ3mほど下がりますが、駐車場棟、西棟の地下に駐車場を構えてございまして、そこを經由して南側の道路に抜けていくというルートを想定しております。この西棟の駐車場にございまして、やや地下深くなると思いますが、360台ここに収容できる。自走式の駐車場、スキップ型の自走式の駐車場を考えております。あるいは北棟と西棟の隙間から、将来的には、交差点整備が整えば、そこからもあるいは出入り可能になるかなど、計画によってはそういうこともできるかなと考えております。

施設全体をユニバーサルデザインで行うことは当然でございます。広域的な駅からの賑わいをどうやって連動させるかということについて、建物がそれに対応する形をしてございまして。それから、緑が、屋敷林、それから境川沿いに緑が窺えますので、そういうものを結ぶような形、これは後ほどご説明しますが、そういうことも配慮したつもりでございます。

これは、入り口に入っていくところのイメージでございます。北棟の中央部にございまして人の入り口でございます。それから向こうにちょっと見えてございまして、遠くの境川沿いを覗いた、まあ風景の穴と呼ぶものですが、穴を開けてございまして。

それから、沿道のイメージが次に出てまいります。これは駅から建物までの沿道のイメージで、右側はまだ整備されてきておりませんが、将来的にはこういう沿道性を持った建物をつくって行きたいということでございまして。それから全体の機能配置でございますが、我々は、北棟と西棟に、主として市民活動が盛んな当市のサービス施設を集中してございまして、北棟の1階部分には、コンシェルジュデスクと情報コーナー、それからお店、そういうものを入れてございまして。西棟、低いと申し上げました西棟でございます。この部分が我々強調したい部分でございまして、駐車場をつくった関係で、駐車場がスキップ状になりますので、そのスキップを利用して、天井の高いロビー空間のようなものをつくってございまして。この部分が中庭とうまく結びついて市民協働空間になっていくのではないかと考えております。

後背部は、会議室部分にしたらいかがかということでございまして。特にこの部分については幅広のテラス、これはイベントのときの座席などにもなると思っておりますが、そういったところについては市民の皆さんとの対話を図りながら進めていく、いろんな形で自由が利く部分だと考えております。テラスの部分は広場から2mほど上がりますが、端部にエレベーターなどを設けまして、先ほど屋上緑化と申し上げましたが、そこまでそのエレベーターそのままあがって行って、屋上緑化の部分を散歩できるというようなことも考えております。中庭、テラス、協働空間というような関係を書いたイメージ図。

次は広場との関係ですが、ご覧のように広場でいろんなアクティビティーがありますと、そういうことが可能ではないかと、ギリシャのアゴラといいますと、ストアという吹き放ちの部分がありますが、そういうものに当たろうかと思っております。

それから、南棟にございまして、執行部あるいは議会を考えなければならぬ

いところでございます。境川沿いの風景を眺めるため穴を設けることとか、その南側には都営住宅がございますので南側の壁は不透明にします。この棟は議会が必要でございます、議会というのはかなり大きなスパンを必要とするために、とかく上のほうに、上層階の方で、柱間が大きいので上層階に設けられますが、これを下のほうに設けることができないかと、実は図面には図示してありませんが、下のほうに丸い形か何か分かりませんが、下のほうに設けられないかとちょっと考えております。外国の例で恐縮でございますが、ノーベル賞の授賞式で有名なストックホルムの市庁舎では議場ではございませんが、近くでブライダルホールに使っておるといふ例もございますので、少子化が進んでおると社会的に言われておりますので、そういう中で、休日とか祭日の日に市長さんあるいは執行部方に出席していただいて、結婚式なんかこういうところでは、そういう催しもできるようにならないかなというイメージも持っております。

次に、設備と構造の対応でございますが、設備に関しまして、環境対応型ということがさかんに最近言われておまして、開口部のペリメーターレスという、部屋の中の、窓面の断熱性能を上げるということでございますが、その他に地熱を利用したトレンチチューブ、それから自然環境を促していくチムニー、まあ空気の煙突ですが、それから西棟の屋上緑化、場合によりますと南の方の棟では壁面緑化もできたらできないかと考えました。あるいは南棟、北棟の屋上は太陽熱発電の設置も考えられます。こういうものを使いましてCO₂の節減と維持管理コストの低減を図る目論見でございます。

構造につきましては、免震構造を考えておまして、根切りとかその他ありまして、一部中途免震になろうかと思っておりますが、全体は、RCをプレキャスト化したプレストレスコンクリート工法でできないかと考えております。この6mかける12mぐらいの2スパン、これを並列していくということを提出図書には書いてございますが、この6mというのは、6m400という例が多ございまして、そういうものにしていく、このモジュールのこととか構法のことにつきましてはコストも含めましてもう少し詳細な検討が必要になってくるんじゃないかと思っております。均質なこういうプレキャスト化するというのは、できるだけモジュールを統一しましてフレキシブルな平断面あるいは設備計画をするためでございます。標準的な平面は中廊下になろうかと思うんですが、随所に吹き放ちとか、あるいは吹き抜け、トップライト、そういうものによって明るさを保持する計画であります。

防災拠点の方策ですが、防災については二つのことを考えなければならないわけですが、一つは、耐震対応ですが、これは先ほど申し上げましたが、免震構造といたします。まあ一部中途になります、ちょっと地面の下が6m程度と深うございますが、これ全棟ではなく、若干掘り込まれるかもしれない。一方、水害のほうの対策については、電気室、自家発電など上層階に設けるのは当たり前であります、避難拠点となっております中庭は、周辺から1m、あるいは1m200とか、そういう1m前後レベルを上げて考えております。当地域は、危険水域2mだとありますけれども、周辺道路が冠水するまでは広場を使っていたら、あるいは西棟、先ほど説明いたしました市民協働空間を使うこ

ともできます。設備インフラが破壊されても自立できるシステムを整えようという計画です。

次に、冒頭にご案内した設計体制とプロセスを西海から説明させていただきます。

(西海氏)

西海です。設計の体制とプロセスについてご説明をします。新庁舎、今回の町田の新庁舎づくりは、単に箱をつくるだけでなく、市庁舎づくりがまちづくりへ繋がって、結果的に地域が活性化していくというきっかけになることが重要だと我々は考えています。そこで市民や町田市等ワークショップを行って協働しながら設計を進めて行くようなプロセスと体制を我々は考えています。

私たちの事務所は、川崎の商店街の活性化とかまちづくり委員会の活動支援、熊谷での景観計画など市民や商店主などとワークショップをしながら経験を、計画づくりをしてきた経験があります。この左上の写真については、名古屋の覚王山というところで、お祭りのときに出す屋台を子どもと一緒に作ったワークショップの風景です。今回のワークショップの目的としては、機能と空間と運営を調整して行くということを目的に行おうと考えています。そのためには、地域性を改めて認識しながら、使い手側の意見、づくり手側の条件等を一緒に考えていく必要があると思います。そこではいろんな問題とか相反する意見とかがあると思いますが、それらをその過程をお互いが認識し、問題を共有することが大切だと思います。

その検討プロセスを通じて人や活動が育ち、その輪が広がってまちづくりに展開していくことを私たちは期待します。今回はそのようなプロセスを進めるために、私たちは、大学研究室、専門家等と一緒に取り組みながら進めて行こうと考えています。参加者の具体的な構成とか規模などは、町田市の事務局等と相談しながら組み立てて行く必要があると思いますが、これは我々が考えたワークショップの流れです。

周辺、建築、装備という3つのスケールの異なったテーマで、おおよそ6段階のワークショップを考えています。ワークショップには大きな模型などを使って今回の提案の内容をご理解いただいた上で進めたいと思っています。まず、周辺計画では新しい市庁舎にどんな機能が必要なのか、というものを具体的な町の将来像を考えながら抽出していきます。そして建築計画では、それらの基本条件を検討するという事とか、周辺と併せたところでの利用イメージを検討しながら空間を考えて行きます。そこでは、具体的に運営というものをどういうふうに市民と行政が分担して行っていくかということも検討することが重要です。そして、装備計画では、協働空間とか中庭などについて、間仕切り方、サインなどについての検討を行って行きます。それらの節目ではこういったフォーラムを行っていくことが重要だと思います。

<ヒアリング>

(三井所委員長)

それでは、時間ですので質問を受けていただきたいと思います。

質問：河野委員

それでは質問させていただきます。これは、前の槇さんにも聞いたような話になるわけですが、都市デザインがご専門だという話もありましたが、今回のこの提案というのは、中庭型であるとか沿道型であるとか心象のイメージという話がありましたが、全体に町田の中でこの地域が持つて、あるイメージというのがあると思うんですが、そこに今回こういう形で建築というか建物の配置も含めた提案をされているわけですが、将来像というか、駅からこの辺の地域にいたる街の将来像ということも含め、どういう計画的なイメージをお持ちなのかを、先ほどもお話あったかもしれませんが、もう少し詳しくお聞かせ願えればと思います。

回答：曾根氏

一言でいいますと、町田は駅の周り、周辺、活気に溢れている面がございます。しかし、非常に猥雑さも片方持っていて、この敷地1.8haでございます。こういうところにまとまった広場というのを確保すること。これが大変な空間的な対比であるし、ここで、先ほど申し上げましたようなギリシャのアゴラの活動、物の交換や情報の交換ができる場になっていく、これだけまとまった空間をここにつくること自体が、一つは町田の特徴というものに繋がっていくのではないかと思います。

それから沿道についてでございますが、駅からこの位置までの距離、おそらく7、8百メートルですが、一般的には、商店街の長さですが、残念ながら大型施設がいくつかあるのと、駐車場等があって途切れております。加えて前面の街路等やや不規則に道路が入っております。私は早晚こういう周辺街区というのは区画整理されていくべき、また、そういう力を持っている場所になるのだろうと考えておりました、沿道性といいますか、建築家ですとD/Hとよく言われますが、そういう片街でない、対面する街というものの形成を将来的には図っていくべきではないかと考えています。

質問：松川委員

市役所というのは、様々な方が様々な目的で訪れるものですから、空間構成のやり方、ゾーニングといいますか、非常に大事だと思うのですが、この案でいきますと南棟と北棟とのオフィスを西の市民協働空間が繋ぐという形になっています。ちょっと離れていて使いにくいのかというのが一つと、それから先ほどのご説明で、議場を下のほうにとおっしゃったのですが、アイソメの図で拝見すると議会と書いてあるところはずいぶん高いところにあると思うのですけれども、議場というのを下のほうに繋げてつくるといってお話でしょうか。

回答：曾根氏

二つご質問あったと思うんですが、1点は、南棟と北棟が離れているということ。これ1階どうしは、ちょうど今西棟のテラスになっているところで両棟を結んでおります。廊下をつくってございます。距離が離れておりますが廊下をつくってございます。

それから、提案時に議会棟が上に書いてございます。確かに今の説明と齟齬がございまして、提案時に規定といいますか、要項を読んだときに、上のほうにという方に読んだものですから、何で上の方でなければいけないのかなという疑念を当時はもったんですが、もしできたら、少し市民活動のある広場面に近づけて設置できるという希望を申し上げたわけでございます。

質問：三井所委員長

ワークショップをやるような市民が参加してくる、あるいはいろんな場面で協働空間として市民が使うということを考えていきますと、デザインそのものもなんかこう新しいデザインだというふうになっていくのではないかと思うんですね。

例えば親しみがあるようなデザインとか、愛着が持てるようなデザインとか、さらに市民社会というベースを意識しながらある種の品格のあるようなデザインとか、長持ちするようなデザインとか、そういうことを建築家、専門家としてどんどん洗練してきたデザインというものとちょっと違う方向でなおかつ品位のあるようなデザインというのがあるような気がする。壊れやすいような材料とか、あるいは汚れやすいようなデザインとか、掃除しにくい部分というのがあってはなかなか品位が保てないのではないかという感じがする。大変難しいところですが、そういうもののあり方、サスティナビリティ、ものとしてのサスティナビリティということも考えて言葉を使いたいと思いますが、そういう部分に関して設計者としてこの庁舎にどういう覚悟で取り組もうとなさるか、そこいらあたりをお聞かせ願いたいと思います。

回答：曾根氏

サスティナビリティに関しましては、かなり中庭を中心とした透明感を持った求心的なもので、おそらくガラス等が使われるだろうと思いますが、いろんな素材ございますが、むしろガラス等を使うということは、清掃その他で、最近、非常にガラスの数は多ございますが、そういうものは割合維持管理しやすいんだという観点を持っているのではないかと考えております。

市庁舎らしい品格ということになりますと、我々は南棟と北棟を低く抑えるということをやったので、むしろ、お隣の集合住宅より低くなります。すると遠くからそういうシンボル性というのがなくなりますので、市庁舎らしい品格というのはやはりここに建物そのものにあるというよりむしろ、中庭の市民の活動、そういうものが町田市庁舎らしいというものに通じていけばよろしいのではないかと私共感じております。

回答：西海氏

私の方から、先ほど新しいデザインということで愛着というものをどういうふうに受け止めるかということがありましたが、結局デザインというものは絶対にサステナビリティがあるとかそういうことではないと思います。

ただ、今回ワークショップ等で市民の方々、行政の方々と使い方ですね、運営の仕方を考えることで、その使い方に応じた空間構成、あるいは使い方に応じた素材というものを一緒に見つけていくことができるのではないかと考えます。ですのでこの絶対的に何か普遍的なサステナビリティをつくるというよりはそこを見つけていくという作業をしていきたいと考えています。

質問：加島委員

コストの問題でございます。建築コスト、ライフサイクルコストの問題でございます。ご提案のあった3棟別々に建てる、北棟、西棟、南棟、3棟を別々に建てるということでございますけれども、コストがかなりかかるのかなと思ったのですが、後のライフサイクルコストも含めてコストの低減に対してどういうお考えを持っているか、先ほど共通モジュールの話もございましたが、その辺も含めてもうちょっと伺いたいと思います。

回答：曾根氏

ご指摘の通りでございます。部材を量産化してモジュール化、同じ寸法化するというのが一つコストを低減化する要素となろうかと思います。

私たち恐れていますのは2点ございます。一つは、地下空間をつくります根切り量でございます。根切りがかなりの量になりまして、これはコストだけではなく、この土量をどのいうふうに始末するかという点が1点。

これはご質問ございませんでしたが、指摘されるのではないかと思いました。それから、もう1点は、免震構法を採っていることございまして、これは地盤のゆれを切断します。最近公共施設は当然よく使われるのですが、そのもの自体にお金がかかります。しかし、上で安くなる部分もありますので3%から5%程度で何とかできるのではないかと考えておりまして、全体プログラムでコストについての提示を正確に把握しておりませんが、上のほうの一般階については標準化されたインテリアになるだろうということであまりコストのかかる建物にはならないだろうと解釈しております。

質問：高見澤委員

市民参加のワークショップ等、職員参加のプログラムは大変丁寧にお考えであることはよく分かるんですが、他方、設計者としてぜひとも守りたい、これは実現したいという空間なのかあるいはある設計の原理なのか、この2つとかこの3つとか、市民と話し合うことはあるにせよ、これだけはやはり主張したいという点をもう1回。

回答：曾根氏

私共がなんとか主張したいと思うのは、既にかかなり広幅員の道路が計画され

ておりますので、沿道部の緑地はもちろん3mをキープしておりますが、できるだけ周辺道路に近づけた沿道中庭型の配置をしたいというのが1点であります。

もう1点は、西棟でございますが、プログラムにありました3,600㎡とありました、3,400㎡ぐらい今ございます。こういうところはかなりフレキシブルに市民の皆さんと相談していきたい点でございますが、この部分と中庭との繋がり部分、これはギリシャのアゴラのような活動が期待できる場所ではないか、このような市民の皆さんと大きな模型などをつくってご議論しながら、意見聞きながら十分変更も対応できるけれども、こんなにすばらしい場所になるのではないかとということをご説明しながら、骨組みは崩さないんですが、中は自由にさせていただくというようなことをイメージしているんですが。

質問：三井所委員長

町田の町に対して、建築家として、これぞ町田へのプレゼントと思ってこの市庁舎の構想の中に入れていただいているものというのは何かと聞こうと思ったんですが、それは今の答えと重なるんでしょうか。

回答：曾根氏

それは一番冒頭で、河野委員から質問があったことが最大でありまして、町田の町というのは何かこの地域の皆さんというよりも、一つの新しい都会といいますか、新宿のようなものが町田に移行してきたというような賑わいを持った場所ではないかというふうに感じております。そんな中でこれだけまとまった空間といいましょうか、広場といいましょうか、そういったものを確保できるということが、かなり大きなことでして、新しい市庁舎の十分売り物と言ったらおかしいんですが、そういうものになるのではないかと感じていますが。

質問：三井所委員長

ガラスが多用された透明感がとても強い空間をつくりたい、ガラスが多用されるだろうというお話を伺ったんですが、提案の中にですね、歴史性とか場所性とか身体性とかというようなものが欠けがちである、一般的な建築にですね、それを是非具体的にしたいというような文章が、ご提案の中にあっただと思えますが、身体性ということ意識したときに、ガラスのという材料がたくさん使われるということで、身体性の回復というのは可能になるんでしょうか。

回答：曾根氏

全てがそういう、まあ、ガラスというと冷たい感じにとられがちですが、例えば沿道沿いにアーケードを工夫したり、あるいは風景の穴といっている部分なんかは木材を使ったり、あるいは中庭に樹木をかなり多量に入れたり、そういうもので構成していきたいと思いますので、必ずしも、ガラス、冷たいという、そういうものでは当然なく、つくりたいと思います。

質問：三井所委員長

あと1分ぐらいありますが、何か最後に付け加えることがあれば。

回答：曾根氏

透過性というのは、中庭での市民活動というのが、やっぱり庁舎に勤めている方、あるいはNPO等やっておられる方からも中庭見ると、お互いに見える、垣間見えるという趣旨でございますので、材料が、外側が必ずしも全部ガラスにしたいと言っている意味ではございません。

質問：三井所委員長

ほかにございませんか。

回答：西海氏

先ほど、ちょっと時間がなかった体制の件なんですけれども、今回設計というチームとワークショップを運営するというチームを考えて、そのそれぞれに関しては、設計担当とワークショップ運営の各チームと一緒に進めていきたいというふうに考えております。

(三井所委員長)

ありがとうございました。ちょうど時間になりました。

3 元倉眞琴チーム

<プレゼンテーション>

(元倉氏)

私が、スタジオ建築計画を主催しております元倉眞琴です。今回の提案者でございます。

(今川氏)

私は、今まで35年構造設計を担当しています。建築の構造は、100年を経ってはじめて役目を果たすというふうに願って構造設計をやっています。今回の市庁舎の構造は、やっぱり100年以上経つことを願って、100年以上実現構造と構造の性能の分かる設計を皆さん方に提案しようと思っています。今川ともうします。どうぞよろしくお願ひします。

(高間氏)

環境設備を担当しております、科学応用冷暖研究所の高間と申します。よろしくお願ひいたします。

(元倉氏)

では、さっそく提案をさせていただきます。今回の提案に当たって、新庁舎基本計画を中心に、委員会の詳細な報告書等を十分研究させていただきました。

その中で、新庁舎の備えるべき姿としておおきく3つ、復習になりますが、ちょっと要約してみますと、1番目は、市民に開かれた便利で使いやすい庁舎、これは市民へのサービスの形や市民と行政との協働、市民同士の交流が謳われています。2番目としては、今後の社会環境に対応した機能・性能を実現した庁舎、これには災害時の役割、環境への配慮、省エネなどが謳われています。3番目として、諸機能が適切に配置された将来の変化に柔軟に対応できる庁舎をつくります。これは議場など新しい機能のあり方を問うもので、将来の変化へのフレキシビリティが謳われています。

これらの内容はどれも極めて先進的で、この新しい庁舎が今後100年を超えて町田市固有の文化の継承を可能にするような内容を的確に示しているものと読みました。ですから私たちの提案すべきことは、この理想を実現するために先進的なこの考えを踏まえて、場所や空間、環境のあり方を具体的に示す、提案することであるというふうに考えます。今日その話を説明したいと思ひます。

そして一番大切に考えたのは、町田市民一人一人が拠り所となるような市庁舎のあり方、広い意味でシンボルを考えること、提案することだと思ひます。これまで、様々な庁舎の形がつくられてきました。そこでは建築の形態や広場などが庁舎のシンボルとして提案されてきましたけれども、どれもが本当に市民の拠り所となるようなものになっていなかったように思ひます。私は、将来へのビジョンを現すものとしてこの庁舎をつくることできないかと考えまし

た。

そして、それはまず第一に、町田市環境のあり方の将来を方向付けるものであるべきだというふうを考えました。ここにあるように新しい庁舎のシンボルは雑木林であるとししました。それは常に、様々に、たくさんの緑化をしようということだけではなく、雑木林ということの持っている人と自然、人と環境のあり方そのものがこれからの町田市民がめざす環境の目標になるのではないかというふう考えたからです。雑木林は全く自然のものということではなくて、人が植えて、育て、面倒を見ることによって、自然の恵みをそこから受けようとするものです。人が環境形成に積極的に関わっていくことによって、良い環境の恵みを得ることができるということを示しているものです。この市庁舎につくろうとしている雑木林は、市民活動の一環として市民が関わり、世話をしていくものです。このことがとても大切なことだと考えました。開かれた市庁舎、参加する市庁舎、市民が交流する市庁舎の形が、雑木林への関わりから生れてくるというふう信じます。

新庁舎の建つ敷地周辺を見ますと、崖線の緑がまだだいぶ残っています。それから、団地、公園それから民家の樹木もかなりまだ残っております。ここで新しく雑木林の塊をつくることによって、そういう他の緑とのネットワークを形成することができると思います。それは、やがてもっと広域な緑のネットワークへの広がりを持つ可能性を持っていると思います。雑木林の形成は庁舎の敷地だけではなくて、隣の市民ホール、それから都営住宅、その集会施設や公園、それから町田駅前通りの並木道、そういうものを、周辺を空地、緑を整備することによって、大きな雑木林の塊というものをつくることできると思います。雑木林の提案は、周辺に対して調和を図り、良い環境を提供しようとするものです。

さらに私は、高層の市庁舎ではなくて、なるべく背の低い、今、7階で25mぐらいで、市民ホールの高さよりちょっと低めであります。こういう高さを押さえた、ボリュームを操作したことによって周辺との調和を考える。それが大切だと思います。

基本計画に謳われている、開かれた庁舎、機能的な庁舎、将来の変化に対応できる庁舎という目標に対して、提案したいのは、町田の街と一体になった、それから、その庁舎自体がたぶん街のようにできている、構成されている、そういうものを提案したいと考えました。市庁舎に託された施設としては、また、親しまれる施設になるためには、行きやすいということがとても重要です。中庭型の市民プラザを提案します。市民プラザには大通りからそのまま入っていくことができます。

また、自転車もまた、こういう場所にとって非常に重要なアクセスの方法です。多くの人々が自転車を使って来ることが予想されます。そのために、自転車もまた、その道に沿った一番便利な、一番いい場所に自転車置場をつくりました。それから車で来る人も、この、今、口の字型の配置ですが、この下のピロティーの部分、それは市民プラザに面している部分ですけれども、そこに直接降り立つことができます。さらに、ここにカフェ、それからコミュニティーームなどを設けることによって、その広場に様々なアクティビティーがあるも

のを設けています。それによって、いつでも、誰でも、用事がなくても、街を歩いてきて、街の広場として、ひよっと誰でも立ち寄りたくなるような広場を提案します。

広場は、バザーや様々なパフォーマンス、イベントなどに使われて、町田の街自体に活気を与えるものになるはずですが、これは、町田駅前大通りから市民プラザの方を見たイメージです。ここに広場があって、この奥に車寄せが見えます。自転車置場はこの手前。

市民プラザが外側の広場だとすれば、内部の市民フォーラムと名付けた、内部の低層階の施設は内部の広場です。市民フォーラムは、市民が直接関係する活動を一堂に集めた空間と考えてください。それは市民の交流の場であり、創造の場であり、庁舎のあるべき姿をいちばんよく現している空間です。

これは市民フォーラムのイメージです。行きやすい1階部分、地下1階部分、2階部分に広がりを持った空間として取られています。かつ、ここであるように活動に応じて、家具や装置、パーテーション、そういうもので自由に構成することができます。つまり、市民が中心になってつくっていく空間として用意されているものです。実際には、ワークショップを通じて、それぞれの活動に合った、場所に合ったものに仕立てていくことが良いというふうに考えています。様々な庁舎に必要な機能が全体に自由にレイアウトされていて、同時にいろんな情報の機能、ボランティアの機能、市民が活動しているようなものがレイアウトされている。どのようにつくっていくかは、多分この広がりのある空間の中でワークショップを通じて、構成していくものと思います。

また、議場、それから市長の空間、それも市民フォーラムに接して設けられています。新しいコミュニケーションがここで生れることを期待しています。議場は、普段使われていないときは、小さなホールとして会議、シンポジウム、音楽やパフォーマンスに使われます。そのとき、この議場の前の市民フォーラムの部分は、ホワイエとして機能します。

上部の3階から7階の5層部分のものは、口の字型のものが重ねられています。口の字型のフロアは、まさにこのパターンどおり、連続的な形を持っています。そのことが重要だと考えます。それによって、様々なゾーニング、様々な使い方に対応でき、非常に高いフレキシビリティを確保できるわけです。また、内側に沿って、今、薄いオレンジ色で描いてありますが、その部分は、行政と市民、ないしは市民同士が交流をし、一緒に作業やコミュニケーションができる、ラウンジ的な空間をこの内側にとりました。それぞれの場所を巡ることができるようになっていく。ひとつの回遊性をその中に設けることができます。さらに、その回遊性を持った空間が上下に重なっておりますので、さらにその上下を上手に繋いであげることによって、立体的な回遊性を持った空間というものがこの中にできる。その途中にひとつバイパスとして、2箇所、ブリッジのような空間を設け、そこには、図書のリウンジ、休憩リウンジとしても使えるように考えております。

そのように立体的な回遊性を持った空間の一番上は、大、中、小の会議室分をまとめたフロアと、さらにレストラン、ギャラリーもまた最上階に設けられる。つまり、一般の人たちの使うことができる施設を最上階に設けることによ

って、一般の人たちが施設全体と関わりを持つことができるというふうに考えました。あちらの街から市民プラザに、それから市民フォーラムに、それから内側のラウンジの空間を巡って、最上階の会議室とかレストラン、ギャラリーに達する連続的な空間を提案したいと思います。それが最初に言った、全体が街のようになった庁舎という提案でございます。

これは断面のイメージです。あちらの街から市民プラザに入り、フォーラムのここに入り、内側のラウンジ空間を巡って、一番上のレストラン、ギャラリー、会議室にいたることになるということがこれでも分かります。駅前大通りからこのプラザにそのままスッと入ってきます。このプラザに立ったときに、街の様子、それから広場の中のアクティビティー、活動の様子、それからさらにその内側にあるラウンジ的な空間、活動的な空間というものを、この場所にいることによって全て眺め、感じることができる。つまり、このプラザは全てのこの庁舎のアクティビティーそのものを集約された広場・立体的な広場ということができると思います。

口の字の構成のよいところは、光を採り入れやすいことです。20mの空間の両側から光を採り入れることができます。それは、電気の消費量を減らし、省エネルギー化を図ることができます。また、口の字の構成は、それぞれの空間は様々な方向を向いています。一日の光の変化を感じることができます。単調ではない、変化に富んだ空間は、そこを訪れる人、そこで働く人を元気付けます。また、外観のデザインについても、方位に応じて環境をうまくコントロールするようなファサードをつくっていくことができます。例えば、西日の当たる面は縦のルーバーを構成することで、美しいファサードと同時に夏の冷房負荷を軽減することができます。

車と人のアプローチは、人のアプローチはもっぱらこっちですけれども、この市民ホールと公営住宅の間を歩いてアプローチすることも可能です。車は、様々な方向から出入りできます。どこから入っても目的の場所にスムーズに行けるように、小さなロータリーを設けます。また、西側の住宅に対して騒音等の負担をかけないように、この通りの通行量を減らすようなことも考えております。

口の字の配置と雑木林によって作り出される小さな機構をつくることができます。それだけではなくて、全体として環境共生型の庁舎を目指しています。ダブルスキンによる熱負荷の軽減、それから採熱、それから床チャンバーによる局所的な冷暖房による効率化、夏の夜の冷気を取り入れたり、様々な省エネルギーの施設を様々なことによって省エネルギーの施設を目指しています。また、太陽光発電、それから風力発電、雨水の利用、中水の利用などによって環境共生型の庁舎を提案します。構造的には、口の字型の外壁は、格子状の柱と梁で構成されています。採光を確保しながら必要に応じて制震装置を組み込んでいきます。それは、建築的にとても有利です。平常時においても地震時においても変位が少なく、安全性の高い構造となっています。

最後に、防災としての意味合いをここに示しています。防災拠点として、当然安全性の高い構造体の中で、防災拠点として、また災害時の拠点としての役割を果たしております。ここにあるように、市民プラザの一部にテントを架け

たり、それから雑木林の役割、市民プラザ、それから市民フォーラム、それは防災のときに非常に有効に働いてくる。と同時に環境的にも快適なものをつくることができるわけです。高層でないことは、安全性において非常に高いメリットを持っていると考えられます。以上で説明を終わります。

<ヒアリング>

(三井所委員長)

それでは、こちらから質問させていただきます。質問が多いものですから、答えは簡潔にお願いします。

質問：河野委員

私は、景観とか街並みのことを皆さんにお聞きしているんですが、今、元倉さんの話のほとんど、その辺の話はあったように思いますけれども、低層でかつ雑木林の街という、非常に魅力的な響きだと思えますが、町田という街の、特に駅からこの辺の地域にいたる街並みといいたいでしょうか、あるいは景観の中で、この建物をこういうふうに置くんだと、あるいは将来どういう街としてこれが変わっていくというんでしょうか。そういう場所としてどういうふうに見えるか。繰り返しになるかも知れませんがその辺のところをお願いいたします。

回答：元倉氏

緑化の話も、景観の話が一つあります。景観の話というのは、その場所だけではなく、それを町全体に広げていくことができる。つまり、この庁舎が一つのきっかけ、はしぐちとなって、緑化を軸にしたある景観形成みたいなものを作ることができる。そういう可能性は一つ持っています。

それから、周辺の建物、公営住宅が突出していちばん大きいわけですがけれども、その他にあまり高い建物がなかった。やはり、町田のような街の場合は、あまり突出した高い建物はふさわしくないと考えて、この高さというのがほぼ限度ではないかというふうに思います。実際にはこの市庁舎の市民プラザのほす前のジムが入っている建物がありましたが、あそこもほぼ同じ。このぐらいのボリュームのことをこれからの街の都市景観の中でも考えて行ったらどうかというふうに思います。

質問：松川委員

たくさんの色々な種類の色々な年代層の方が来る建物なので、自分の行きたいところへ行けるかとかですね、分かりやすさというのが非常に大事になると思いますけれども、そういう分かりやすさを保障すると言う意味で、案の中で譲れない空間というのが、どういうところかというのが一つ。それからもう一つ、元倉チーム案は、協働スペースというのが、この口の字型の中層の建物の内側に沿って中庭側に面して置かれていて、その背後にというか外側にオフィス執務空間があるという構成をとっていると思うのですが、この協働ラウンジ

というのが、例えば、やがては変わるのかもしれませんが、休日等のように使われて、活気のあるスペースができるのかと、そういうようなことも少し詳しくご説明いただきたいと思います。

回答：元倉氏

まず、分かりやすさという点から、私の提案した中で譲れないところというのは、やはり、市民プラザ、口の字型によって、1階の部分は比較的オープンですけど、囲われた空間ですね、そこに雑木林そのものもシンボル性を考えたものなんですけど、やっぱり広場というものを、つまり、今まで様々な人たち、様々な建築家が挑戦して行った市民の空間のあり方だと思うんですが、それをもう一度トライしてみたいと思うんですが、ほんとにいい形をつくって行きたいというのがあるんです。

それから協働ラウンジの話、これは難しい問題です。どこで閉じるかということで、結局フレキシビリティを持った空間というのは、閉じることができないという矛盾した形をもっているわけです。この協働ラウンジのイメージは、役所がやっているときに市民たちが役所の人たち、行政の人たちと会ったり、市民同士が打合せしたりする空間として考えたものです。役所が休みのときにオープンにできる空間が、私の案でいきますと地下1階、1階、2階の市民フォーラムとっている部分と、エレベーターで繋ぐことになるだろう最上階のギャラリー、レストラン、大、中、小の会議室がオープンになると考えている。

質問：三井所委員長

庁舎というものが、今までの庁舎とずいぶん違う庁舎が基本計画で提案されている。いろんな方が庁舎にお見えになる。そういう意味では市民に親しまれなくてははいけない。愛着を持たれなくてははいけない。そして、市民社会としてのある種の品位を持たなくてははいけない。そういう何かちょっと難しい、新しいテーマだと思うんですね。これまでの現代建築が追い求めてきたものではない部分が、新しい社会のあり方の中に建築のデザインに要求するものを持っているのではないかと思う。

少し具体的にいきますとですね、壊れやすい材料とか、汚れやすい、掃除しにくいような物の重ね方とか使い方とか、最初100年という数字も出てきましたけれども、長持ちをするようなもの、時間が応援してくれるような建築とか、できた時がいちばん良くて、だんだん悪くなっていくような建築であってははいけないとか。そういうようなものが備わって、愛着とか親しみとか、あるいは品位とかが出てくるのではないかと思いますけれども、具体的に材料の使い方なんかそれがそれに大いに関係してくるんだと思いますが、そういう部分、新しいテーマといいましようか、ややもすると現代建築が見過ごしていたような部分に関する部材の気持ちをお伝え願えないでしょうか。

回答：元倉氏

外観の話は先ほどちょっと触れたんですが、設計をしてやっているわけではないので、具体的な外観がどうということはまだ決めていませんが、やっぱり

外壁の部分、外皮の部分は、それはやっぱり環境とのやりくりだろう。もちろんダブルスキンの提案も含めていっているわけですが、一般的には通常の面に関してはガラスの面が比較的多い建物になるだろう。ただ、今、構造的に細かい格子の構成をしようとしていますので、それが材料及び外観への一つの展開になる。

それから、委員の方々に見ていただいた、僕は市庁舎の経験が今までなかったので、大学の講義棟を見ていただきました。あのときに、材料のことを色々考えた。学生たちというのは、一種のバンダリズムですね、学生はなおざりな使い方をするだろう。それに対してどういう材料を構えていたらいいかということをよく考えた。非常に単純に少ない材料で、非常に、そういう破壊に、汚れに割りと強い材料を使ってやった例がある。今度の場合もそういうようなことを考えに入れて、材料の使い方等を考えて行きたいというふうに思っています。

回答：今川氏

構造の問題で。今回使っている材料は、格子がRCで床がRCというふうに、それは重力に耐える形をつくる材料として使っているわけです。それから地震力は、その格子の中に嵌めてある制震パネルもしくはガラスというものが空間を間仕切るものになる。簡単に言えば、構造が邪魔しない空間がこの口の字型のかっこうで実現しているということが今回の新しい提案。完全に重力と地震力を分けて使うことによって、かなり長寿命の建物ができるというふうに分けられる。今までは地震力も重力も同じ材料で抵抗していたというところが、長寿命ということが実現しにくかったというところにある。それが今回は新しい空間が実現されたと思っています。

回答：高間氏

設備でいきますと、システムそのものは、25年ぐらいでだいたい寿命がくるんですけども、配管ラインとかそういうところをなるべく建築寿命に近い線に持っていくということが大事なかなと思っています。それで設備機器については、これ建築ヤードと一緒にやらなくてはいけないんですけども、後での改修が非常にしやすいとか、そういうレイアウトにしたい。

質問：加島委員

今の質問と相反するのかもしれませんが、コストの問題ですね。口の字型にして、構造もかなりいろいろお金をかけると思えるんですけども。その辺のコストの低減策も何かお考えなのかお聞きしたい。ライフサイクルも含めて。

回答：元倉氏

ライフサイクルコストに関しては、基本計画の中でも謳われているように、この市庁舎が将来どんな形で使い方が変わっていくかというのが予測がつかない。なるべく単純な構造にして、単純な床にして、それに対して引いていって、その分は変わるというライフサイクルコストに対する考えとしてはある。

イニシャルコストに関しては、基本的には、やはり単純化する。単純な形のものをつくっていくということが一つ僕らの計画の中ではポイント。非常に単純な口の字型のフロアーが周りのほうに構成している、これは様々な構法、建設時において様々な工夫を取り入れる可能性があるものだというふうに考えます。単純さそのものをイニシャルコストの提案にしたいと思います。

回答：今川氏

ちょっと補足をしますと、重力のもとでは形が決まると基本的には同じ力が加わりますから、7層といえども下の階、上の階、ほぼ応力は同じになります。地震力に対しては下の方が大きくなります。それを加工しやすい鉄、まあ材料で負担して加工しようという。したがって重力に対しては、仕組みはほぼ同じシステムでつくり上げることができるというところは、単純化ということになる。

床も単純にフラットな床ですから重力だけしか抵抗しないという、地震力を床が負担しないというシステムで、単純化ということは、床面積全体を被っている。そこが今までの建築関係の日本の構造でやられていなかったところだと思います。

質問：加島委員

この口の字型で光を採り入れやすい、単純な構造ということもあるんですが、アクセスの問題で真ん中に通路を提案なさってますよね。その辺でちょっとコストがあるのかと思ったものですから。

回答：元倉氏

それは、アクティビティーそのものをですね、表現の形として。もちろん真ん中に通路があると、それぞれのスペースを面白くするもう一つショートカットを構成するので、フレキシビリティが増すというメリットがある。それから全体を活性化させるということ。コストはその持っている、それを獲得することとコストとのバスターといいますか、何もやらなければ当然コストは安いでしょうし、やる価値があるかどうかで判断したい。必ずしもああいう方法が、アクティビティーないし残地空間を構成する唯一の方法とも思っていない。まだこの段階では、フレキシブルに私のほうも考えていると受け取っていただいて。

質問：高見澤委員

私は町田市民でもあるので、ちょっと別の観点から伺いますけれども、基本計画までを読み込んでいただいたのは大変ありがたい。今の最後の話しにもありましたけれども、これからまだまだずいぶん変わっていく条件が色々出てくると思う。一つはそういうときに、単価もそうですけれども、一定のプロセスの中で具体的に市民や議会の方々等を巻き込んで、進められるかという問題が一つ。

それからそれに付随して、さりながら、そういう方々の意見をすべて受け入

ればいいというわけでもないでしょうし、設計者としてこれは譲りたくないという原則とかポリシーというあたりをちょっと。

回答：元倉氏

コメントの一番最後に、ほんとはコメントしたかったことなので申し上げますと、開かれた庁舎というときに、やはり、できあがってから描かれた計画に市民が参加してくるのではなくて、設計が始まったところから参加というものがなければだめだと。その間にきちっとした市民参加、市民と一緒にそれはつくっていくという形ができれば、開かれた庁舎というのに一つ接近できると考えています。ですから、設計を進めていく中で、具体的には、いくつかのタイプの委員会、ないしはワークショップを組み立てていっておりますし、特に、僕の作品案だと下層部に関しては、あまり具体的な建築の提案をしていません。ですから、この部分に関して、いちばん市民の方、それをワークショップをつくって、こちらから提案をして、また、それを市民がそのなかで意見を交換して、またそれを加工していくというようなことをやってみたいというふうに思います。

それからもう一つ大切なのは、やはりメディアの問題があります。特にインターネット、ホームページに必ずやっているプロセスを市民全体に知らせていくことが必要だと思います。

回答：今川氏

多分町田市の個性の発見と確認ということが、我々の専門家としての役目だと思っております。その個性というのを外の間が専門家として携わるわけですが、具体的にはよく、隅々までは分かっていないわけですから、それを発見することがいちばん重要で、それが最終的にスタートを切るワークショップ的な活動ではないかと思えます。

質問：三井所委員長

特に、最初と最後のあたりに述べられたような気もするんですけども、チームとして最も町田市らしい庁舎にしたい、あるいは、しようと思って、提案されている構想というものの、簡単にいうと、市民の方に確認という意味でお知らせするとすればどういことですか。

回答：元倉氏

僕が提案したいことを、簡単にキャッチコピーで述べればいいんですね。

雑木林は緑化そのものを指すと同時に、市民の参加の一つの形というものをそこで行ってみたい。そういう環境というものは、実は町田市庁舎のシンボルという、そういう環境というものをこのプロジェクトは、この場所は現している。この場所は現しているんだということが重要なことなんです。それは今までの建築でシンボルをつくらうとしていたものとは違う、これから先の、何か、もののシンボルのあり方だと思います。それから先ほど申し上げましたように、やはり市民のための広場、本当の市民のための広場、それをどうしたらつくっ

ていけるのか、それは完全な結論を僕がここで持っているわけではない。逆に、それこそワークショップを開いて、皆がこういうところで何をしたいのか一緒に考えていかなければできない。ただ、散々僕も勉強し、聞かされてきたが、日本の中ではなかなか成立しがたいといわれている、ほんとの市民のための広場というものを何か考えてみたいというのが2つ。

もう一つは、いい環境をつくるということは、たぶん防災的な意味、災害時における拠点としての意味と、基本的には同じことというふうに思える。つまり、非常に気持ちの良い広い広場、雑木林、建物を低く抑え、周りに調和させる、そういうことは関係として考えているという説明の仕方でもできるわけですが、それは防災そのものと同じメリットを持っている。ということにこのプロジェクトをやっていて気がついたわけですが、簡単にいうと、この3点をこのプロジェクトの中で、これからの100年先の町田の市庁舎のあり方として、是非実現させて行きたいというふうに思います。

(三井所委員長)

ありがとうございました。

<三井所委員長コメント>

3名の方のヒアリングが終わりました。お聞きになっていて、基本計画の策定に参加した方々、町田の市民として聞いておられた方、それぞれの想いがありかと思えますけれど、私共、かなりの範囲で基本計画を読み込んでいただいた提案をしていただいているのではないかと考えております。この点につきましては、3者以外の提案もほとんど多くの案で、よく読み込んでいただいていると考えております。

それから、今日、お聞きになっていて、3チームの説明で似ているようなところがたくさんあったんですね。あるいは違っているところをお感じになったりしてると思います。表通り、駅前通りの形成については、提案者として強く意識しているという点では共通ですし、具体的に言うと少しずつ違っているということでございますので。それから、車の動線の扱いについても、最初の案は、線路側のほうからもってくるという、この案は全部の案の中で、たぶん唯一そういう案だと思えますが、特徴的でした。そういう案は逆に、表の通りに対する考え方ということに反している考え方だと理解できますけれども。

そういうことですか、共通の部分としては、アゴラとか市民プラザとか、新しい市庁舎のあり方と協働空間のあり方の繋がり方みたいなものに対して共通の提案がなされていて、細かく見ていくと少しずつ違う。そういうようなポイントがあったと思います。審査ということで行きますと、違いを意識しながらどう比べて、どう評価するかということがこれから問題でございますが、もう少し具体的に皆で話し合いながら見つけて行きたいと考えております。

それから、もう既にご理解いただいていると思えますが、3つのチームに対して同じような質問をそれぞれの立場からいたしました。それぞれのお答えをいただきましたので、それも含めて私たちは判断をしたいと考えています。

それから皆さんがご存知でない話として、このヒアリングに入る前に、3チームの提案者に、今までにおつくりになった建物で、我々見せていただきたいものがある。それは、どれを見たらいいですかと質問をして、第1推薦、第2推薦で建物を提案していただきました。それを、岩手県、福岡県、東京というふうに今年初めに見てまいりました。そういうことで、建物を見ながら、チームの性格だとか癖とかが少し分かるかと思ったりしたのですが。これから、いずれにしてもつくられて行くことですので、それに拘束されることだけはないとももちろん思っております。

今回の新庁舎の計画というのは、ワークショップという基本設計段階でのプロセスをとることになりますので、市民の方が建築家を育てる、あるいは市民の方と建築家と一緒に市庁舎をつくって行く、あるいは建築家のいろんな提案によって市民の方々が成長するという、そういうような場面がいろいろ出てくるでしょうから、これまでの提案の具体的な構想だけでは、結果として建築ができるわけではないですね。

そういう意味で、新しい試みを町田市がなさっていると思って、我々もそれに協力したいと考えておりますが、そういう意味で、市民との協力、協働、ワークショップをどういうふうに進めて行かれるかという問題も評価の重要なポ

イントだと思っております。それぞれ個性的なところがありましたし、これから慎重に審議していきたいと思っております。今日はありがとうございました。

《 最 終 審 査 》

日 時：2006年1月21日（土） 午後4時10分から午後6時10分
場 所：町田市民フォーラム 4階 会議室
出席者：三井所委員長、高見澤委員、河野委員、松川委員、加島委員
事務局：渋谷担当部長、石川新庁舎担当課長、千葉主査、端主査、伝田主査、
瀧野主事
作成資料：第3次審査3者比較表

委員長：どのようにして決めるか。後で市民や応募者などにも説明できるようにしなければならない。

委 員：質問点ごとにまとめてはどうか。

委員長：ベースをかためてしまえばあとが進めやすいと思う。

委 員：質問した人がその質問した答えの印象を言ってみるか。

委員長：質問項目を表にしてまとめてはどうか。

委 員：縦を3つに分けて3者の名前を記入し、横を質問項目に分けて書き込めるようにしてはどうか。

（ホワイトボード上に「第3次審査3者比較表」を作成 ※57頁参照）

「①街並み」

委 員：私は街並みのことを聞いたので、そのことから始める。

榎さんは代官山の街並みをずっとつくってきた実績の中で、今回の敷地は代官山のスケールに近い。街並みとか景観とか従来の街に合わせるということが必ずしもいいとは思わないと言っていた。むしろ新しい景観をつくるというように理解した。

曾根さんは心象のイメージから沿道型という街をつくることを意識的にやった。高層とかシンボルとかではなく、建築のありようが都市デザインであろうというように理解した。

元倉さんは雑木林のような街。緑豊かな環境に囲まれた庁舎。雑木林は周辺にもあり、街並みの中に雑木林をつくり、雑木林づくりの拠点とする。それを広げていこうという意図であった。

委 員：榎さんは200mの長さをもった豊かな表情を持った街並みをつくりたいと言っていた。

委 員：代官山は250mで、ここは200mであると言っていた。

委 員：曾根さんは駅前の活気は大変結構だけれども、雑多である。その駅前との対比で新庁舎には中庭をつくりたいと言っていた。

委員長：曾根さんは沿道型をつくるのだけれども、中庭もあり、抜けている沿道型。

- 委員：沿道中庭型ということか。
- 委員長：中庭が見えるというのも重要だ。南棟にも穴があってさらに向こうが見える。槇さんがよく奥性という言葉を使う。そういうのを沿道型の建物をつくる時も、表側だけでなく中庭へ抜けているということではないか。
- 委員：元倉さんの中では、低層でと考えると高さ7階が限度ではないか。
- 委員長：低層で街並をつくりたいと言っていた。曾根さんは街並みのところでD/Hと言っていた、道路と高さの問題であると思が。片面だけの街並みではなく、両側の街並み、それを意識した街並み、表通り側に広場をつくらず中庭をつくったということは両側に街並みをつくらうとしたということだろう。
- 委員：第2次審査の12者の案の中には、表通り側に大きな広場をつくっていたものがあつた。
- 委員：今回の3者の案ではそれがない。
- 委員長：通過する人にとって、引っ込んでいる広場は頼りない。街が伸びていく感じがしない。前に広場があると街はそこで終わりという感じがしてしまう。
- 委員：今はそういうのは、問題も指摘されている。
- 委員：前に広場があるのは、古典的なスタイルかもしれない。
- 委員：この3者が選ばれた共通の理由にその広場の取り方というのがあつた。

「②ゾーニング」「③材料」

- 委員：槇さんはコの字型の市民利用空間の後ろ側に庁舎をつくるのがキーだと言つた。コの字型は議場なども含めて言つていたのだろうか。
- 委員長：L字型ではないのか。
- 委員：槇さんはL型とは言わなかつた。議場も入れているのでは。市民利用空間がコの字型にできている。
- 委員：巴形とも言つていた。
- 委員：曾根さんは、まとまつた広場を確保することに非常に意味があると言つていたので、そこは譲れないのではないかと思つた。議場はどこにあるのか、遠いのではないかということ、聞いてみた。議場は下の方に持つてくるように修正し、市民利用に使いたいと言つていた。議場が上になればと読んでしまつたと言つていた。
- 委員：要領で議場は上にとあつたのか。
- 事務局：実施要領にはなかつたが、基本計画の中で議会は中高層部にある。
- 委員：南棟と西棟は遠いが、廊下で繋いだと言つていた。曾根さんのゾーニングの意図ははっきりしている。南と北にオフィスにおいて、西で市民利用を行う。元倉さんは広場に挑戦したいと言つていた。休日は協働ラウンジの下で閉じたいと言つていた。協働ラウンジと言つても打ち合わせしたりする程度ではないか。

- 委員：部屋にすると環境が悪くなってしまう。
- 委員：これは、もしかしたらカウンターをなくしてしまうのかなと思ったのだが。
- 委員：むしろカウンターをしっかりとつけて、休日は網が下りてきて、それで中廊下がゆっくり使えるのかもしれない。
- 委員長：そういうのもある。
- 委員：口の字型のフレキシビリティと盛んに言っていた。スペースが大きいものや小さいものが自由にできる。
- 委員長：口の字の内側と外側で区画できる。これはワークショップでの可能性がある。
- 私の質問は、建築物が貧相に見えたり、嫌になってしまう、逆に言えば親しみがある、愛着があるとかということがある。材料のこととか材料の組み合わせのことを中心に質問した。最近の金属とガラスだけでつくられる建築では愛着を持たないのではないかと思ったが、みなさん、それに関しては必ずしもまともには答えてはくれなかった。槇さんがそれに一番まともには答えてくれたような気がする。無機的でのっぺりというのを避けたい時にどういうもので対処するのかと聞きたかったが、緑の棚とか吹抜けと言った。
- 委員：槇さんはルーバーなどで木を使い、彫りの深い感じに仕上げる、またルーフの扱いを考えたいと言っていた。
- 委員長：それからルーフの扱いや性格を考えたいと言っていた。それは雨風の防止とか汚れとか雨水の浸透に関しては効果的であると、提案書の上の絵の屋根について言っていた。
- 委員：景観のこともからめて言っていた。曾根さんのところは活動のことでと答えていた。もともと、ものでシンボル性を出したくなくて、心象のシンボル性と言っている訳だから。活動とか使いやすさの良さで愛着を出したいように言っていた。
- 委員：中庭も活動にある。
- 委員長：だから活動なのではないか。まともには答えてくれなかった。質問の仕方が悪かったか。
- 委員：中庭の透視性というか透過性のこともあり、簡単には答えられまい。
- 委員長：元倉さんはダブルスキンで汚れなどに対処したいと言っていた。ガラスは掃除しやすいと誰か言っていた。
- 委員：ガラスのことにしてみなさん個性があると思った。曾根さんは、ガラスは清掃がやりやすいと言っていた。少し強引だと思った。元倉さんはガラスを細かい格子で区切ろうと思うと言った気がする。
- 委員：構造的なことを含めてだと思う。
- 委員長：細かい格子で区切ると埃がつきやすい。
- 委員：私も実はそう思った。
- 委員長：バンダリズムに対しては壊れないようなものでやりたいという意識は持っている。どういう素材だとバンダリズムに耐えられるかとは言わなかった。学校ではコンクリートということだと思うが。

- 委員：元倉さんは少ない材料でと言っていた。材料を使いすぎると長い時間の中でメンテナンスが大変になる。
- 委員長：今川さんが構造的フレームとその中の耐震要素を分けることによって、耐震性にも対応すると言っていた。
- 委員：槇さんは、アトリウムガラスの経費はどうにでもなると言っていた。
- 委員：自然換気とか、日照をコントロールして負荷を抑えるから負担がそんなにないと言った。
- 委員長：空調のための省エネのこと。
- 委員：ルーバーなどを付けるのではないか。日照をコントロールして、窓を開くようにして自然換気をするので省エネになると。
- 委員長：ダブルスキンという言葉も使っていた。ランニングコストの意味で言っていたと思う。アトリウムはそんなに大きくないというようなことを言っていた。
- 委員：建設費は与えられたコストの中でバランス良くやると言っていた。
- 委員：当たり前だが、それしか言いようがない。
- 委員：心配だ。
- 委員：心配だ。曾根さんは、3棟共通モジュール化。
- 委員：量産化というほどではないと思った。
- 委員：3～5%とは何か。全体コストを下げるという意味か。
- 委員：地下の根切と免震装置で高くなるが、上層部の方はモジュールを揃えて量産化したりすることによって相殺されて3～5%は低減すると言った。
- 委員：免震にすれば、上の構造は楽になる。
- 委員：元倉さんの答えは分かりやすかった。単純化することでコストは安くなると言っていた。
- 委員：口の字型だから安いんだという感じだった。
- 委員：確かに、凹凸のある建物よりは安いかもしれない。
- 委員：元倉案のフレームは本当に安くなるのか。
- 委員長：安くなる可能性がある。型枠の問題と梁がないため設備配管が楽になる。
- 委員：槇さんは三原市で実績があると言っていた。モデルプランを示してそれを検討する。全く無前提に何かやるのではなくて、モデルプランはやはり設計者が、という雰囲気だ。槇さんの完成度に期待したい。曾根さんに、何にこだわるかと聞いたら、沿道中庭型というテーマと中庭と自由度のある西棟とのつながりの2つを言っていた。
- 委員長：西棟は3,500㎡くらいあるので、そこをみんなで考えようということだろう。
- 委員：元倉さんは始まりから参加。特に下層階に。
- 委員：あえて提案しなかったと言っていた。
- 委員：メディアで公開と言っていた。これは他の人も言わせればそうだと思う。
- 委員長：元倉さんは始まりから参加と言ったが皆そうだ。

榎さんは巴型の話をちょっとしたけれども、ワークショップでどんどん変わっていくから特に町田らしさというのを持っていないと言っていた。

委員：榎さんはこれが町田だと言いたくない、これが町田だと押し付けるのは嫌だと言っていた。

委員：これから市民と話しあって、町田らしさを見つけるという趣旨か。

委員長：ワークショップでつくっていくという趣旨だろう。

委員：つくったものが町田らしくなると言っていた。代官山も最初はいろいろあったけれど、ああいう形になったと言っていた。感心した。

委員：あの自信はすごい。

委員：全て例を挙げて説明する。さすがだ。

委員：「代官山はお洒落な街だから、お洒落な建物をつくろう」というふうにしたのではなく、「つくったものがお洒落だから、代官山はお洒落になる」と主張されたのだ。

委員：まさに代官山はそうだった。

委員長：曾根さんは意見を聞きながらアゴラをつくると言っていた。

委員：12者の案では他にアゴラという言葉を使っていたものもあった。

委員：曾根さんはアゴラがゾーニングの基本だから、譲れない。

委員長：市民とつくるアゴラということが、町田らしさということ。

委員：曾根さんの、町田は新宿的賑わいを持つと言ったのは、評価しているのか。エネルギーは評価するが、雑多だといっているのか。その中でこれだけまとまった広場をつくるのが目玉であると言っていたのか。

委員長：元倉さんは雑木林。

委員：こういう環境が町田らしさだと言ったのは、市民参加とかのことか。

委員：緑豊かな環境に包まれた庁舎イコール町田らしさだということだろう。

委員：人と空間との関わりという意味合いを雑木林としたのだろう。単に緑だけでなく、雑木林がプロセスであると。

委員：その辺がうまい。

委員：そのプロセスから町田らしさが生まれる。榎さんとやや似ている。

委員長：暗示であるということ。

次に評価をする。各項目を◎○△×で評価するか、あるいは5点満点で評価するか。答えがうまくできなかったと思われる点についてはこちらで補うこととする。街並みというのと周辺への配慮というのを含めながら、ABCで評価する。A+とかB-というのが出てくると思うが。

委員：実績から言うと榎さんの街並み、景観に対する配慮はすばらしい。魅力的なのは元倉さんの雑木林。曾根さんはこの案の中では3番目か。環境ということを考えて元倉さんの案はつつこめば面白い。榎さんはボリュームの分節の仕方がうまい。間違いなくいいものになるのは榎さんの案だ。

委員：榎さんは車の入り口は南だから、表通りの200mをつくったというのはすごいことだ。

- 委員：市民ホールと合わせて市民開放型の施設となると、200mの空間はすごい。
- 委員：元倉さんの案はきれいだが、その部分は切ってしまっている。
- 委員長：200mというスケールを発見したのはすばらしい。ABCをつけるか。
- 委員：順番で言うと、これに関しては、榎さんA、元倉さんB、曾根さんCか。
- 委員：差は僅かとはいえ、並べればそういう順だろう。
- 委員長：セットバックして緑をおいて、いかに道路の歩道空間を豊かにするか。
- 委員：街に貢献している。
- 委員長：それに対して曾根さんの案は少し街に接近しすぎている。
- 委員：そのかわり榎さんの案は、南に全部車をもってきたのは、めったに市役所に来ない人にとっては車のアプローチが分かりにくい。
- 委員：元倉さんの案は多様なルートがある。
- 委員：榎さんの案は明快すぎるくらい明快。オーソドックスすぎるくらい。
- 委員：巴形にして接点を増やしていくというのはいまい。
- 委員：すごく合理的にしている。
- 委員長：議会の位置は道路から縦の意識ということになる。西側が議会だが、真ん中が市民の所で、一番手前は庁舎という認識か。
- 委員：榎さんの案は建物を分節して、それぞれ機能がはっきりしている。高層の事務棟、低層の市民利用、議場があって、その間に広場とかがあって明快だ。
- 委員：本当にはっきりしている。
- 委員：わかりやすい。
- 委員長：明快であり、単純でなく豊かさがある。
- 委員：そこまで決めてしまうやり方と、元倉さんみたいに、常に自由に、フレキシブルに使いなさいというように、ある意味対極だ。元倉さんは建物しか決めていない。
- 委員：元倉さんの案は、いろんな意味で新しい提案がある。榎さんの方が完成度が高い。それをどう評価するかだ。やはり曾根さんの案はちょっと使い方に問題があるか。
- 委員：廊下が数十mもあるというのがあるし。まあ、雨に濡れずに行けるということだろう。
- 委員：間に市民利用の空間があるのはいいことだが、ただ、やはりわかりにくさからどっちに行ったらいいのかというのが市民に出てくるのでは。どの課も市民と直結する部分があるから。南棟に行ったらいいのか北棟に行ったらいいのかというのがある。
- 委員長：今のまま続けていってもよいが、今のような話を通してから最後に投票の形で各項目にABCを付けるか。
- 委員：今のままの方が、少なくともこれは良くないというのが分かるのではないか。
- 委員：今のままいっても大丈夫ではないか。

委員長：それでは、今のまま進める。
委員：街並みに関しては榎さんがA、曾根さんがB、元倉さんがAか。AC Aか。
委員長：ACA。
委員：榎さんの的にセキュリティーの高い事務棟みたいなものと、元倉さんの案みたいに事務棟というのがなくて、どこにでも市民が顔を出せるというのは、市としてセキュリティーはどう考えるか。ある意味、新しい提案だが。
委員：ただ、内側の打合せコーナーとか窓口とかそういうイメージではないかと思う。
委員：協働ラウンジか。
委員：階によって大きくとってあるところもあれば、委員会組織みたいに、ほとんど市民の来ないところもある。変わるのではないか。
委員：自由に変えればいい。
委員：かなりフレキシブルにということだから。
委員：福祉だとかは市民がたくさん来るから、そういうところは協働スペースがかなり多いフロアーになる。だからやれないことはない。
委員長：ACAか。市民の意見を技術的にまとめる能力があるかどうか。具体的に建物を見ていくと、やはり建築になれている榎さんは木の使い方、アルミの使い方はうまいと思う。ABBか。
委員：元倉案は危なげはある。同じでいいと思う。
委員：構造提案を評価するかだ。榎さんのところにはなかった。
委員：全体の最後のところでも話しは出ると思うが、提案型なのか、完成度の高いものか。どう転じても出てきそうだ。
委員長：今回の答えのところまでを含めて言うと、曾根さんがCか。それとも同じでいいか。
委員：同じでいい気がする。
委員長：ABBか。
委員：元倉さんの、新しい提案で努力をしようという意気を買えばB+か。榎さんは安定感がある。
委員：本当にオーソドックスだ。
委員：榎さんは、新しい言葉は特にないが、使いこんだ材料とか、構法でつくり出すという、安定している。

「④コスト」「⑤市民参加」

委員：一番お金がかかりそうなのは榎さんか。
委員：曾根さんの案も部分が大きく、表面積が大きい。
委員：アトリウムもお金がかかる。
委員長：オフィス部分が分散している元倉案も大変だろう。
委員：皆高そうだ。

- 委員：3つとも高い気がした。それはしかたがないというか、羊羹型が一番安い訳だが、そうはいかない。そういう意味では曾根さんの案は、意外に安いかもしれないと思った。それ（羊羹）を切っただけだから。つないだりしたら大変だが。
- 委員：基本設計の段階から、コスト管理の要素を事務局がなるべく入れていくべきだ。
- 委員：コスト管理をしてもらわないと後で大変になってしまう。
- 委員：応募してくる人が安さを前面に出して売りにしてくるはずはない。
- 委員：様式7（設計チームの技術職員内訳）で、積算担当を書いていたチームもあった。
- 委員長：皆Bとした時にどれか良いというのがあるか。
- 委員：何か提案的にやろうと思えば高くなるというのがある。コストも大事な要素だが、コストを意識して設計しますとしか言いようがない。例えば、吹抜けをやめれば安くなる。槇さんの案だったら、緑の柵をやめれば安くなる。
- 委員：槇チームは積算担当者が5人いる。コスト管理をしようとする意欲がある。曾根チームは積算担当がいらない。元倉チームも積算担当がいらない。入れればいい話だ。槇チームも二葉設計というところを協力事務所にしているので、他だって言えば入れるだろう。
- 委員：当たり前前のことを書いてアピールするか。そうでないかということか。
- 委員長：昔は外壁の面積が多いものが高くなると言われていた。ペリメータにはすごくお金がかかるので。みんなBか。
- 委員：コストというのは、コストに対する対応とか考え方がしっかりしているかの評価なのか。とりあえず今回提案されているものが、どれが一番高そうかというのはちょっと別だろう。
- 委員：差がなかったということか。
- 委員：変わりはない。
- 委員：槇さんののは一番高さそうだけど、気にはしている。
- 委員：公開ヒアリングの場で、みんな気にしてますよと言っていることを確認したことに意味がある。
- 委員：みんなやると言っている訳だ。参加については、誰が圧倒的に強いとは言えない。
- 委員長：具体的にモデルを示しながらスケジュールを追って柔軟に対応するというのと、それからシステムや人間まで準備したのは曾根さんの提案。
- 委員：それはちょっと高く評価していいかもしれない。元倉さんはまだ準備がない。それではA A BかB B Cか。
- 委員：B B B´くらいではないか。Aというほどすごくはないのではないか。
- 委員：確かに。
- 委員：比べても決め手があまりない。これも、みなさん宣言してもらったことに大きな意義があって、市民に対してメッセージをあの場所でちゃんと言ってもらったということに意義があるのではないか。

委員長：それではBBB´で。

委員：BBBか。ダッシュはちょっと下がって、プラスは上がるということ。公開ヒアリングの場でみんな市民参加をやると言ってもらったことに意味があった。

「⑥町田らしさ」

委員長：町田らしさはみんなAか。

委員：そうだろう。

委員：普通は、例えば雪国だから材料をどうのとか言うが。風土とか。

委員：誰も言わなかった。でも曾根さんのコメントが一番それに関連していた。

委員長：曾根さんが多摩の丘の上と町田の谷戸をパルテノンとアゴラで表したと言っていた。A＋くらいですか。

委員：そうだ。

委員：A、A＋、Aか。

「総合評価」

委員：点をつけたら槇さんか。

委員：点をつけたら、槇さんがかなり高くて、元倉さんが次にいて、さらに追うのが曾根さんか。

委員：槇さん、元倉さん、曾根さんの順か。

委員：槇さんA、元倉さんB´、曾根さんB”くらいか。

委員長：あまり点数でいなくて、読み込みでいくと槇さんA、曾根さんがB、元倉さんがB＋。

委員：さて、そういう前提でどうしたら良いか。総合的に見て、今までの議論で全てCはなかったということだ。誰が最優秀かと言うと。

委員長：ちょっとリスクはあるが、若い人に期待してやってもらうか。技術的な安定感のあるベテランにやってもらうか。

委員：市民との予想される相性もある。

委員：市役所との相性もある。

委員：人柄、話しやすさというのものもある。QBSだから。

委員：3人とも話しやすい人だ。

委員：槇さんも権威的でない。

委員：権威主義的な人はいない。

委員：槇さんか元倉さんかという感じか。

委員：ここまでは、それでいいのではないか。曾根さんの案は12者の案の中では良かったが、3つ並べるととりあえず置いておいて、残りの2つの議論をするか。

委員長：ゾーニングのことが大きいか。
委員：ゾーニングがごちゃごちゃという訳ではないが、できた結果があれだった。
委員：うまくいけばいいけれども、問題が起こったら致命的か。
委員長：曾根さんのは将来の配置換え・部局換えの対応が大変では。
委員：くつついてないから。
委員：曾根さんの街並みは、Cまではしなくてよかったのでは。
委員：Bだろう。
委員：曾根さんは準優秀でよいか。
委員：アゴラで結びつくのだが、逆にアゴラで分離しているような気もする。分庁舎になっている。別の機能だったら良かったが。
委員：榎さんが25mとか20mのスケールとか言っていた。代官山では20m角とか。ああいうスケール感覚とかは、すごくヒューマンな感じがした。見えながら奥につながっていく。細やかにつながっていく。
委員：そういう意味では、曾根さんのはちょっと大味という気がする。
委員：町田駅方面から来ると真っ先に建物の角が見えるというのも威圧感がある。
委員：道路にも寄りすぎている。沿道型にもこだわっていると思うが。それと、分庁舎になっている。
委員：都庁も分庁舎になっているが、この規模では分けないほうがいいのか。
委員：このことについては疑義があるということか。
委員長：西側の住宅地側に駐車場の固まりが大量にあるのも気になる。
委員：北棟の西端もちょっと高いか。
委員長：そろそろ榎さん、元倉さん、2人の議論をする。
委員：元倉さんも代官山に関わっていたことから、2人の案は近いと言える。
委員：デザインの質みみたいなものはかなり近い。二人の人格、デザイン、プロセスはどう違うのか。
委員長：そういう意味では近い。榎さんも、元倉さんを信頼していると思う。
委員：福岡大学のホールを今日は榎さんが出していた。
委員長：それは60周年記念館の方だ。今回の提案を見ると低層部の作り方がすごく似ている。
委員：議会のあり方、人の流れ方を見ると、榎さんの案の方がよい。
委員長：議会の位置が、市民がいっぱいいるところの両脇に市長と市民を代表する議会があるということ、市長と議長と市民が集まった防災センターになり得るような考え方。
委員：元倉さんの議場があって、市長室があってそのフロアーの中に防災センターがある。
委員：榎さんの方が庁舎の機能に慣れているというだけのことかもしれない。
委員：榎さんの案は余分なことが書いていない。
委員：ここまであっさりとした表現でここまで残るのはすごい。

- 委員：槇さんを落として、元倉さんを若さだけで採用したとは言えない。
- 委員：仮に、槇さんでなくて元倉さんを選ぶとしたら、その理由があるのか。
- 委員：総合的には槇さんだが、だけどもという言い方はない。
- 委員：しいていえば、低層で口の字で雑木林でということ高く評価したという言い方か。
- 委員：次の時代を開く21世紀の庁舎の可能性を持つと高い評価ができるか。この場合、槇さんは極めて手堅い、しっかりとしてという言い方になって、その上のランクとして元倉さんを評価できるかどうか。
- 委員長：期待をかけなくてはいけない。
- 委員：最初からみなさんの何となくの論調でも、それはもう安心感があって手堅くて、それはもうという方がフェアだ。しかし、もう少し新たな提案や冒険、次の時代の庁舎のあり方にかけてみるなら元倉さん。
- 委員長：槇さんはYKKではいろんな表情をつけて街並みを意識した。幕張（パティオス）でもこういうのをつくる時には、1つの面に2人の建築家の顔が出るようにした。こことここを変えるとかコーナーをみんな変えていくとか、いろんな工夫をして単調さを破っていった。これを格子でずっとつくっていくとするとすごく単調になる気がする。裏目にでるのではないかなと思う。雑木林で見えなくすることを考えたとしても、巨大な粒がボツンとくるような気がして、街並みに馴染むとかそういうようなことが難しい気がする。だから、評価を逆転するほど、冒険しなくていい気がする。
- 委員：中は面白くできるかもしれないが、外は単調になりそうだ。
- 委員：槇さんのはコスト的にはどうか。
- 委員長：今の段階では、もので提案している訳ではないので、これは予算を超えるから絶対にだめだというデータはそろっていない。
- 委員：1人ひとり意見を言って、異論があればさらに議論するか。
- 委員長：街並みをつくるというようなことが、庁舎の機能を満足すると同時に解決しなければならないテーマだとすると、街区型の口の字そのものは街をつくるという形をしているが、例えばヨーロッパの街を見ても、口の字型になっている部分が、もっと小さく分節されて別々の建物が集まっているのが一般的。そうでないものは、パリの権力でつくった建物がある。元倉さんだから、そうつくらない可能性は高いが。槇さんの基本的なボリュームのばらし方、実績もそうだが周囲に違うように見える街並みをつくってくれる。街並みをつくることができる、街の中に入れても違和感のない建築をつくる建築家がいいのではないか。これからの新しい庁舎にしても、コンバージョンでできる庁舎にしても、いい影響を与えるのではないか。
- 委員：率直に言って、槇さんの案は完成度が高い。ボリュームの分節の仕方がうまい。
ただ、元倉さんも、若さやフレキシビリティにかけてみたいところもある。低層の雑木林というのがイメージとして魅力的である。ただ、外側を単純化したことにより、逆にスケールオーバーしてしまう気が

する。

委員：私も槇さんでいいと思う。この完成度の高さの前には、なかなか、ちょっとずつの欠点やリスクがある案はかなわない。元倉さんの新しい提案とか次の時代を開く提案などは良かったが、ちょっと単調。槇さんの完成度の高さに元倉さんのボリュームの単調さが少し負けているかなという感じだ。

委員：あの比較表で見て、材料のことはわからないけれども、ゾーニングに関しては元倉さんのも実際的には1階、2階は巴形なのかなと思う。あと上はどういうふうになり立つか。決定的なものが①の街並みだけに最後に出たのかなと思う。あとはプラスとかダッシュとかあるが、ほぼ街並みの差でということならば仕方がないかなと思う。

委員：今の意見に賛成。槇さんでいいと思う。元倉さんの案もいいが、想像するとどうなるかなというところがあった。

委員長：もし、2次審査で全く違うタイプの3案を選んでいたら、今日の審査はどう行っていけばよいかという状況になった。

委員：これで良かった。

委員長：よろしいですか。

委員：この巴形に象徴されるフレキシビリティと街並みというところで圧倒的だったというようなことだろう。

委員長：槇さんの案には、庁舎というタイプの施設としての新しさはないが、基本計画を満たされたものだと思う。

委員：今日のプレゼンテーションを聞いていてもそつがない。どこを聞いてみても一応説明がつく。

委員：答えも上手だった。

委員長：槇さんのネームバリューに圧倒されて選んだ訳ではない。それから、そつがないと言っても、例えば82、3点でそつがないというレベルではなくて、95、6点でそつがないというそんなレベルという気がする。

委員長：それでは、最優秀者＝槇文彦さん、優秀者＝元倉眞琴さん、準優秀者＝曾根幸一さんに決定。

第3次審査 3者比較表

	最優秀 楨 A	準優秀 曾根 B	優秀 元倉 B+
①街並み	代官山の実績（250m） 今回200m 新しい景観を作る A	心象 両側に街並みを形成 沿道中庭型 ×シンボル→○建築のあり よう B	雑木林、低層 緑豊か 緑の拠点 A
②ゾーニング	コの字型 巴型 A	議場下層に、市民利用 アゴラ C	広場に挑戦 協働ラウンジ コの字型のフレキシビリティ A´
③材料	緑の棚 ルーフの性格 木を使い深みを創出 A	活動＝中庭 透視性 B	ダブルスキン ガラス：細かい格子で対応 少ない材料で対応 フレームと耐震要素 B+
④コスト	アトリウムのガラス、 省エネ対応 ダブルスキン バランス良く （予算の範囲内） B	共通モジュール化 免震 （総コストの約3～5%） B	単純化 B
⑤市民参加	三原市での実績 モデルを示す B	沿道中庭型にはこだわる 西棟は市民参加の余地大 B	始まりから参加 （特に下層階） メディアで公開 B´
⑥町田らしさ	ワークショップで（町田ら しさを）作る A	市民と作るアゴラ A+	雑木林（暗示） 人が作り育てシンボルが生 れる A

《町田市新庁舎建設設計者選定第3次審査結果の市長への報告》

日 時：2006年1月21日（土）午後6時から午後6時30分
場 所：町田市役所市長公室
出席者：寺田市長、牧田助役、三井所委員長、高見澤委員、河野委員、松川委員、加島委員
事務局：渋谷新庁舎担当部長、石川新庁舎担当課長、千葉主査、浦田主事
資 料：第3次審査結果報告書
榎文彦簡易提案書、元倉眞琴簡易提案書、曾根幸一簡易提案書

＜第3次審査結果について寺田市長に報告＞

- ・三井所委員長が、第3次審査結果報告書を市長に手渡し、審査経過、最優秀、優秀、準優秀3案のそれぞれの特徴等を説明した。
- ・その後、各委員が審査にあたった感想を述べ、市長報告を終了した。

《町田市新庁舎建設設計者選定結果の講評に関する打合せ》

日 時：2006年1月21日（土）午後6時30分から午後8時
場 所：町田市役所市長公室
出席者：三井所委員長、高見澤委員、河野委員、松川委員、加島委員
事務局：渋谷新庁舎担当部長、石川新庁舎担当課長、千葉主査、浦田主事

＜新庁舎建設設計者選定結果の講評に関する打合せ＞

- ・審査結果の講評について、2月中旬を目標に町田市ホームページに掲載することとした。
- ・議事録についても掲載予定のため、第1回の選定委員会からの議事録を各委員に送付し、確認することとした。
- ・最終審査結果の町田市ホームページ掲載文について、確認した。

以上